会 議 記 録

会議名称	令和6年度第1回杉並区ジェンダー平等に関する審議会
日時	令和7年1月27日(月)午後6時～
場所	杉並区役所第4会議室(中棟6階)
出席者	委員名 村松会長、高見副会長、藤岡委員、岩橋委員、櫻井委員、三戸委員、岩田委員、山田委員、横山委員
	事務局 区民生活部長、区民生活部男女共同参画担当課長、保健福祉部計画調整担当課長(保健福祉部管理課長兼務)、子ども家庭部管理課長、区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長、区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援係
欠席者	内田委員
傍聴者数	4名
配付資料等	資料1 令和6年度 第1回杉並区ジェンダー平等に関する審議会 次第 資料2 杉並区ジェンダー平等に関する審議会 委員名簿(裏面:席次表) 資料3 杉並区ジェンダー平等に関する審議会 事務局名簿 資料4 杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例 資料5 杉並区ジェンダー平等に関する審議会を傍聴される方へのお願い 資料6 杉並区ジェンダー平等に関する審議会 開催スケジュール案 資料7 杉並区基礎資料 資料8 杉並区資料 すぎなみ産(創刊号、vol.7) 資料9 杉並区総合計画・実行計画に関する資料(一部抜粋) 資料10 審議テーマについて 資料11 杉並区性の多様性が尊重される地域社会を実現するための取組の推進に関する条例 資料12 杉並区パートナーシップ制度に関する規則 資料13 杉並区パートナーシップ制度利用の手引 冊子資料1 杉並区男女共同参画行動計画 令和4年度(2022年度)～令和12年度(2030年度) 冊子資料2 男女共同参画に関する意識と生活実態調査報告書 参考資料1 第56回杉並区区民意向調査 区政に関する意識と実態(要約版) 参考資料2 杉並区区制施行90周年記念誌 参考資料3 国立女性教育会館 男女共同参画統計リーフレット2024
会議次第	1 開会 2 委嘱 3 区長挨拶 4 委員挨拶 5 事務局紹介 6 会長選出及び副会長選任 7 審議事項審問 8 議題及び報告事項等 (1) 杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例及び審議会運営について

	<p>(2) 審議会の開催スケジュール案について (3) 検討用基礎資料について (4) 審議テーマについて 9 その他 第2回開催候補日 令和7年2月28日(金) 午後6時～</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>それでは定刻を少々過ぎました。申し訳ございません。これより第1回杉並区ジェンダー平等に関する審議会を開催させていただきます。私は当審議会の事務局を担当いたします、杉並区区民生活部男女共同参画担当課長の磯淵明代と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本審議会の委員は10名でございます。今ここでは8名の委員の方にご来場いただいております。内田委員はご欠席、山田委員は今、オンラインのほうでご参加を頂いております。オンラインの参加を含め合計で9名となります。委員の過半数以上にご出席を頂いておりますので、審議会条例第5条第2項により本審議会は成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>それでは、次第に従い進行をさせていただきます。次第につきましては、席上に資料があると思います。山田委員のほうにも同じものをお送りしてございます。では、表紙に「令和6年度第1回杉並区ジェンダー平等に関する審議会次第」という資料がございますので、こちらに沿って進行させていただきます。</p> <p>それでは、次第2に入らせていただきます。次第2は「委嘱」となります。本来であれば、区長からお一人ずつ委嘱状をお渡しさせていただくところではございますが、会議時間の都合により、席上配付にて失礼させていただいております。恐れ入りますが、皆様、お手元の委嘱状をご確認いただけますでしょうか。山田委員のほうにもお送りしてあるということですのでよろしいでしょうか。ご確認ありがとうございます。</p> <p>それでは、次第3の「区長挨拶」に移らせていただきます。杉並区長、岸本聡子よりご挨拶を申し上げます。区長、よろしくお願い申し上げます。</p>
杉並区長	<p>委員の皆様、こんばんは。岸本です。お忙しい中、杉並区、ジェンダー平等に関する審議会委員を引き受けてくださりまして、本当にありがとうございます。第1回の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。杉並区の総合計画で、全ての人が認め合い、支え合いながら共生するまちという言葉掲げて、人権という誰もが生まれながらに等しく持っている、人として幸せな生活を営むための権利である人権が尊重される地域社会を目指しております。その中で、区の男女共同参画の取組は、1995年に最初の行動計画が作られましたが、それから30年という月日がたちました。現在進められている行動計画は、SDGsのテーマであるジェンダー平等の視点を重視して取りまとめられています。そして、社会の変化、人々の多様性への意識の高まりを受けまして、一昨年には性の多様性が尊重される地域社会を実現するための取組の推進に関する条例を制定し、パートナーシップ制度の運用を開始いたしました。私たちの歩みというのは、杉並区の歩み、こういったところまで参りました。</p> <p>一方で、多くの課題もございます。昨年実施しました区の調査では、固定的な性別役割分担や男女平等に関する意識に依然根強い問題があることや、性的マイノリティの人権について侵害されているとの回答が5割を超えるなど、新しい課題もまた多様となっております。1人1人の人間が性別にかかわらず平等に責任や権利、機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に進めていくジェンダー平等社会の実現に向けては、これらの課題を一体のものと捉え、区が目指す未来を見据えた取組のさらなる推進が必要だと考えています。</p> <p>本日お越しいただいております委員の皆様は、ジェンダー平等について、年代も非常に幅広く、そして知見も経験も多様な、この審議会が、</p>

	<p>皆様、委員になっていただきました。この審議会、ぜひ活発な議論をしていただきますようお願いを申し上げます。</p> <p>この私たちが目指すジェンダー平等の社会の根底にあるのは、人権だと私は思っております。ジェンダー平等は広い概念ではありますが、それを様々な施策を通じて地域社会の中で、杉並区の中で実感を作っていくしたいと思います。</p> <p>ちょうど1年半ほど前に、子どもの権利に関する審議会を設置したときに、私が委員の皆様の前で挨拶させていただいたことを思い出します。その後1年半ぐらいの期間でございましたが、審議会の議論が進行する中で、子どもたちが関わったり、区役所の中で議論が起きたり、地域社会の中でたくさんのワークショップや子どもたちとの取組が進み、そして子どもの居場所基本方針という話合いも同時に進行していくような過程でした。きっとこのジェンダー平等の審議会についても、ここでの皆様の審議というのが、区役所の中や地域社会と呼应しながら進んでいくのかと、広がっていくのかと期待しておりますし、その審議会の答申を頂いた先に、まさにそこから出発するという審議会にきつとなっていくと思いますので、皆様のご議論に大変期待を申し上げて、最初の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>区長、ありがとうございます。</p> <p>それでは、次第を進めさせていただきます。続きましては、次第4「委員挨拶」とさせていただきます。委員の皆様にご挨拶と、よろしければ自己紹介をお願いできればと考えております。順番ですが、今、藤岡委員がいらっしゃいますので、藤岡委員から順に、櫻井委員、岩田委員、村松委員、横山委員ときて、ちょうどスクリーンが今、山田委員が映ってございますので、山田委員から高見委員、三戸委員、岩橋委員ということで順にお願いできればと思います。マイクのほうはお手元でございますでしょうか。それでは、藤岡委員から順にご挨拶と自己紹介をお願いできますでしょうか。</p>
藤岡委員	<p>藤岡です。本日はよろしくお願いいたします。私、区民の公募委員というところで応募させていただいて、通していただいたというところになっているのですが、ふだんは女性支援の活動とか、自分の暮らしている中で、やっぱり社会構造の問題なのにもかかわらず、自責の念を抱いている方がすごく多いなというところを課題に感じていて、そういったところで皆さんと一緒に考えたり、また、まちを前に進めたりとか、そういったことができればいいなと思って、今回ぜひと思い応募させていただいたところになっています。半年ぐらいになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
櫻井委員	<p>こんばんは。一般社団法人GENCOURAGE代表理事の櫻井彩乃と申します。私は、今30歳なのですが、高校2年生のときからこのジェンダー課題に関心を持って活動しておりまして、今は学校の中でジェンダー課題を感じて解決したいユースたちを、オンライン上でジェンカレというものをやっていて、学んで、つながって、行動するというような5か月間のプログラムを展開しております。本当にこのジェンダー課題、若い世代も、そして様々な方々がきっと当事者であると思いますので、まだまだ気づいていないという方もいると思うのですが、今回皆さんとこういった場で議論していきながら、この杉並区をよりジェンダー平等なまちにできるように、私も頑張りたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
岩田委員	<p>こんばんは。はじめまして、岩田整と申します。現在、弁護士をしています。こちらの審議会、東京弁護士会の推薦を頂いて参加させていただいています。弁護士会では、性の平等に関する委員会というところに所属して、様々なジェンダー絡みの勉強をしたり、取り組んだり、啓発</p>

	<p>活動をしたり、できることはしております。</p> <p>前職は、当時、労働省に入省しまして、13年間勤めました。いろいろ仕事をいっぱいやったというか、やらされた思い出がいっぱいあるのですけれども、一番思い出深いというか、ご紹介したいのは、96年に育児休業を私自身が取得したということで、その間、仕事をしなかったのが一番大きな仕事かなと私は思っております。今は子どもたちも成人しまして、仕事をしなくてはいけなかなというところがございます。この審議会はせっかく参加させてもらったので、微力ではありますが、できる限りのことをしていきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
村松委員	<p>村松泰子と申します。よろしくお願いたします。私は昨年6月まで、57年間仕事をずっと続けてまいりまして、名簿には東京学芸大学の名前が載っておりますが、東京学芸大学には23年間勤めて、社会学、特にジェンダーの社会学などを講義したり、研究したりしておりました。その前、さらに、23年勤める前に25年、NHKの研究所で仕事をしておりました。そのときに、1974年、今朝氣がついたのですけれども、50年前にテレビドラマの描く女性像という研究をやりまして、以来、つまり50年間、ジェンダーをテーマに研究活動をやってきました。ジェンダーとメディア、ジェンダーと教育などを専門にやってきました。研究歴も長くなったのですが、区民歴は80年です。ずっと杉並区に暮らしております。ただし、区に絡む仕事は、60代ぐらいまではほかの仕事が忙しくてあまりお手伝いできなかったのですが、70代からコミュニティスクールの学校運営協議会のお手伝いをしたりとか、それから、今後、どういう形になるか、これからの審議会で決めるのだと思いますが、これまでは杉並区は男女共同参画区民懇談会というのがありまして、その委員も3年間務めさせていただきました。これからまた次のステップに進むということで、大変期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
横山委員	<p>人権擁護委員の横山です。私は今、東京都連の同和問題研究委員会というところで、部落差別の研究が中心なのですけれども、それだけではなくて、様々な差別がありますので、最近ではコロナ差別がありましたけれども、そういう差別の問題について取り組んでおります。よろしくお願いいたします。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>それでは山田委員、お声を出すことができますでしょうか。よろしくお願いいたします。</p>
山田委員	<p>中央大学の山田昌弘でございます。八王子で先ほどまで会議だったのでリモートで失礼させていただきます。ジェンダー問題に関しては、私、家族社会学が専門なのですけれども、ジェンダー問題に関しましては、たまたま1989年にジェンダーの社会学という日本で初めてジェンダーという言葉タイトルにかぶせた本を書かせていただきまして、ジェンダー論に関わらせていただいたのですけれども、ジェンダー論に関心のある男性ということで珍しくて、いろいろなところに呼ばれることが多くなりまして、今は内閣府の男女共同参画会議の民間議員をしております。今年新たに5年計画が立ち上がる調査会の会長をさせていただいておりますので、国の動きとも連動しながら審議会に加わりたいと思っております。</p> <p>杉並区はあまり縁がないのですけれども、村松大先輩に誘われまして、区長も女性でありますし、区議会議員数比率も日本で一番高いジェンダー平等最先端の杉並区で委員をさせていただくことは私もうれしく思っております。よろしくお願いいたします。</p>
区民生活部男女共同参画担当	<p>山田委員、ありがとうございました。続きまして、高見委員、よろしくお願いいたします。</p>

当課長	
高見委員	<p>こんばんは。高見具広と申します。独立行政法人労働政策研究・研修機構というところで研究員をしております。この組織は厚生労働省所管の研究所以りまして、私自身は、最近、働き方改革や、ワーク・ライフ・バランス、働き過ぎの問題について研究しているところでございます。</p> <p>私は埼玉県在住で杉並区民ではないのですけれども、かつて20年ほど前に2年間ほど杉並区に住んだことがあります。それがささやかなご縁ですが、今回この審議会の委員を頑張っって務めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
三戸委員	<p>皆さん、こんばんは。NPO法人ReBitから参りました三戸と申します。ReBitは2009年からLGBTQに関する取組をしているNPO法人でして、私自身も2014年くらいから教育現場や行政、企業などで性の多様性に関する普及活動をしております。</p> <p>私も同じく3年ほど実は杉並に住んでいたことがありまして、私、出身の大学が東京女子大だったのですけれども、最初寮で生活していたので、最初の3年間は杉並でお世話になっておりました。こうしてご縁を頂けてすごくうれしいなと思っております。</p> <p>ジェンダー平等に関してですとか、LGBTQに関しても最近法律ですとか通知などが様々出てきておりますが、やはり生活実感が変わっていくためには自治体の取組がすごく大事だと私は思っております。この杉並区を通して全国に先駆けていろいろな取組ができるのではないかなという期待を持っておりますので、そこに向けて私もいろいろ頑張らせていただきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
岩橋委員	<p>岩橋春美と申します。杉並女性団体連絡会の運営委員をしております。会から推薦という形で来ました。杉並女性団体連絡会というのは1990年に発足しまして、その発足のときから関わっておりますが、杉並の女性の歴史という原水爆禁止運動から始まっていて、人脈的にはつながっています。先輩たちが環境問題、特に公害の問題とか、ごみ問題とか、消費者運動とか、それから社会福祉の問題、特に老後の対策で、新しい形の老人ホームを作るとか、そういう活動をしてきた先輩たちがずっと杉並女性団体連絡会の中心になっておられまして、それだけ女性の活動がありながらも、消費者運動があるから消費者センターができ、環境問題で熱心な区民たちがいたので環境情報センターができ、というように個別にいろいろな杉並の施設ができていたのですけれども、女性センターというのはなかったのです。それで、97年に男女平等推進センターというのが荻窪一丁目にできました。そのときに改めて女性の問題、女性としての問題、つまり個別の社会問題に取り組んできた人たちが、改めてもう男女平等は当然よね、なぜ今さら男女平等なの、などと言っていたメンバーもいるのです。その中で改めて男女平等推進センターという名前を名乗って、そこで活動してくるということが90年代の終わり頃から盛んになって、盛んというか取り組んでまいりました。</p> <p>今回も、もう本当にジェンダーを専門な、女性の問題、特にジェンダー平等、そして女性に対する暴力の問題とか、活動しているうちに仲間たちができて、新しいメンバーも来ているのです。若手を推薦しようというつもりだったのですけれども、杉並の女性の活動の歴史を知っている人に入ってほしいという区のほうからの要請がありまして、つまり新進気鋭ではなくて、土地の古老が出てこいということなので、私は90年からなのですけれども、もっと前の先輩たちもお元気なのです。お元気なのですけど、先輩たちは今の杉女連を知らない。ずっといるのはおまえさんだけだということで推薦されてしまいました。村松先生の小学校の後輩です。</p>

区民生活部男女共同参画担当課長	<p>ありがとうございました。皆様、ありがとうございました。委員の皆様には十分にご審議が頂けるように、事務局のほうも精いっぱい努めさせていただきます。引き続きよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、次第を進めさせていただきます。続きまして次第5「事務局紹介」に移らせていただきます。お手元の資料の中に事務局名簿をお配りしているかと思ひます。上のほうから順番にご挨拶をさせていただきますと思ひます。</p> <p>それでは、寺井部長、お願ひいたします。</p>
区民生活部長	<p>皆さん、こんばんは。区民生活部長の寺井でございます。男女共同参画は区民生活部の所管ということで、私のところが所管でございますので、所管部長としてご挨拶させていただきます。</p> <p>皆さん、お忙しい中、委員をお引き受け頂きまして、ありがとうございます。先ほど区長から、1995年、最初の男女共同参画行動計画ができたというお話がありました。その2年後、1997年、杉並区の男女共同参画都市宣言という宣言が行われました。これは議会のほうで議決を頂いて宣言をしたものでございます。</p> <p>それからもう27年たっております。いまだに掲げております。その男女共同参画の都市宣言ですね。1997年という、映画でいうと「タイタニック」が公開された年です。その年から掲げてあるということで、そうは言っても、いくらいいものであっても、27年たつとやはり社会の状況が変わっております。女性の働き方も変わっていますし、家庭の状況も変わっています。経済状況だって変わっていますし、性の多様性という条例もできました。そうしたことで、ぜひこの男女共同参画の取組をジェンダー平等という視点から発展させていきたいということで、今回の審議会を設置させていただいたということでございます。</p> <p>そうはいっても、そんなことを言って区役所はどうなのと言われるかもしれませんが、区役所は福祉系の職員、保育士さんは女性が多いので、事務系で考えますと、職員の約半数は女性です。係長級になると約4割が女性です。管理職になると4割に届きません。約2割です。23%だったと思ひますが、管理職が女性ということになっています。全体で見ても技術系の職員や福祉系の職員を入れても、全体で管理職は2割ちょっとだと思います。そのような組織になってございます。</p> <p>これから1か月に1回ぐらい開催するというハードスケジュールで参りますので、ぜひ皆さんお付き合ひいただければと思ひます。ぜひ活発なご議論をどうぞよろしくお願ひします。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>では、続きまして、私のほうですね。改めまして男女共同参画担当課長を務めております磯淵明代と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>今ほど寺井のほうから杉並区の幾つかの数字をお示しましたけれども、私のほうでも先ほど資料を確認していましたところ、男女共同参画行動計画というのがどちらの自治体もありまして、毎年その進捗状況というのをレポートされているのですが、杉並区は男性の育児休業取得率というのが非常に高く、先ほどちょっと確認しましたところ、令和5年度の男性職員の育児休業取得率が81.8%というところで、かなり高い結果が出ているところですが、もちろんそれ以外にも様々な課題が区にも、区役所にもあると思ひます。皆様のお力でこの審議会を進めていきたいと思ひますので、お力添えのほど、どうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。</p>
保健福祉部計画調整担当課長（保健福祉部管理課長兼	<p>すみません、保健福祉部の計画調整担当課長をしております松田と申します。皆様にお渡しした名刺には管理課長となっておりますけれども、兼務でございます。この取組は分野横断的に取り組むということで、保健福祉の関係の分野から私が代表して出ておりますけど、要所所所で必</p>

務)	要に応じて担当課長が出ることとなりますので、よろしく願いいたします。
子ども家庭部管理課長	<p>改めまして、子ども家庭部管理課長、浅川でございます。どうぞよろしく願いいたします。子ども家庭部所管といたしましては、先ほど区長のほうからの挨拶もございましたとおり、最近ですと子どもの権利ですとか、それから子どもの居場所、あと児童相談所の開設、それから、従来からの取組でいきますと、子育て支援、保育、児童館。そういったところを担当しております。</p> <p>今回の議論の中でも、いわゆる子育ての、いわゆる現場といえますか、世代といえますか、そういったところでもジェンダーの話というのはいろいろ出てくると予想されますので、そういったときには今の保健福祉部同様、所管の課長ともどもいろいろ議論させていただければなと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	<p>こんばんは。メールでは皆様とも非常にたくさんやり取りさせていただいていると思いますが、改めまして、杉並区の区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長をしております高橋と申します。会議の進行が滞りなくいけるように、事務局として精いっぱい頑張らせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援係	<p>同じく運営担当の日下と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>以上、事務局のほうからご挨拶をさせていただきました。</p> <p>それでは、次第の6に入らせていただきます。次第の6は「会長選出及び副会長選任」でございます。</p> <p>会長はこの審議会条例の第4条第1項に基づきまして、委員の互選により定めることとなっております。自薦、他薦は問いません。どなたか立候補、またはご推薦にお手を挙げていただける方、いらっしゃいましたら、お願いできますでしょうか。</p>
横山委員	<p>村松先生を推薦したいと思います。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>どうもありがとうございます。ただいま横山委員より村松委員を推薦するお声が上がりましたが、皆様いかがでしょうか。ご同意いただける場合には、拍手をもってお願いできますでしょうか。</p> <p>(拍手)</p> <p>ありがとうございます。それではご承認いただきましたとして、当審議会の会長は村松委員にお願いいたします。</p> <p>それでは、村松委員は会長席へのご移動をお願いできますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは村松会長、会長ご就任に当たり、一言ご挨拶いただけますでしょうか。</p>
村松会長	<p>ただいまご推薦いただきました村松泰子でございます。先ほど自己紹介させていただきましたけれども、とても大事な審議会だと思っておりますので、今後、鋭意努めていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>先ほど岩橋さんから杉並区の女性の歴史についてお話しいただきました。私、先ほど申し上げたように、80年杉並区民をやっていますが、3年前ですかね、2022年が杉並区政の90周年で、記念誌というのが作られました。その中で、杉並の5つのストーリーズというのが紹介されていて、全部紹介する暇はないのですけれども、私、杉並区の南のほうの高井戸というところの杉並清掃工場の真ん前に住んでいるのですけど、それに絡む「杉並ごみ戦争」という有名な住民運動がありまして、</p>

	<p>そのおかげで現在ごみの搬入というのが非常に巧妙な形で、住民の目に触れないような形でされているので、大変快適な生活をさせてもらっています。</p> <p>また、昨年はノーベル平和賞に日本被団協が選ばれましたけれども、それにつながる原水爆禁止署名運動というのが杉並から起きています。女性たちが、女性だけではありませんけれども、非常に活躍されてやっていらっしゃると思います。昨年は1954年のビキニ環礁における水爆実験の被害からちょうど70周年だったので、区内では様々な催しが開かれまして、私もそれにいろいろ伺わせていただきますと、本当に女性、住民たちが頑張ってきたことが分かります。何もこれだけに限らず、その他その他、杉並区というのが住民運動とか住民参加で区政だとか政治を動かしてきた歴史というのがしっかりあるすばらしい区だと私としては思っております。</p> <p>その区でようやくといいますか、先ほどもお話がありましたけれども、男女共同参画都市宣言というのは、均等法のできた1997年にされてはいるのですが、先ほど申し上げましたが、これまでは男女共同参画推進区民会議というのがありましたけれども、決定権は別にあるわけではないし、その人たち、そういうところでやや歯がゆかったかなと思っておりました。私が区の行政に関わるお手伝いを始めたのは、それまでは働き人間でありまして、お手伝いを始めたのがほぼ70代になってから、杉並区の連絡会とつながったのはその頃かなと思います。</p> <p>そういう意味で、私のキャリアの最終盤だと思っているのですが、そこで私の人生を通じてのテーマであるジェンダー平等に関して、長く住んできた区の事業をお手伝いできることになったことを大変うれしく思っています。区長の諮問が頂けると思うのですが、それに対して充実した答申を出せるように、委員の皆様方と、そして事務局の方たちにご協力いただいで進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>会長、ありがとうございます。続きまして、副会長の選任に移りたいと思います。副会長は審議会条例の第4条第3項によりまして、会長が指名する委員をもってこれに充てることとなっております。村松会長、どなたかご指名を頂けますでしょうか。</p>
村松会長	<p>高見委員にお願いできないでしょうか。私は高見委員さんが内閣府のグローバルセミナーでしたか、何かにご登壇いただいたのを聞いておまして、先ほど自分のキャリアを話すときに飛ばしてしまったのですが、つい最近まで務めていたのが日本女性学習財団というところでございましたけれども、そこでも高見さんに何かお願いしようかなと思っただけでございますので、今回一緒できることを大変うれしく思っております。そういう意味で、高見さんに副会長を務めていただくとありがたいなと思っておりますが、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>ただいま村松会長から高見委員を副会長にご推薦を頂きました。皆様よろしければ拍手をもってご承認いただけますでしょうか。</p> <p>(拍手)</p> <p>ありがとうございます。では高見委員、副会長のお席へのご移動をお願いいたします。高見副会長からも一言お願いできますでしょうか。</p>
高見副会長	<p>改めまして高見です。このたびはご指名いただき、大変光栄に思っております。今、委員の皆様からの自己紹介をお聞きして、本当に多様なバックグラウンドの方、いろいろなご知見をお持ちの方がこうやって参集されておられるこの審議会、非常に楽しみにしております。このたびはこういうご縁を頂きまして、村松会長はじめ皆様方から杉並区の歴史やそのほかいろいろなことを学びながら、精いっぱい務めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

区民生活部男女共同参画担当課長	高見副会長、どうもありがとうございました。これにて会長と副会長の選任出を終了いたしましたので、以降の進行は村松会長にお願いできればと思います。よろしく願いいたします。
村松会長	それでは、次第に従いまして進めたいと思います。まず最初に次第7「審議事項諮問」に入らせていただきます。区長から諮問をお願いいたします。
杉並区長	では、杉並区ジェンダー平等に関する審議会会長様。 杉並区のジェンダー平等に係る施策に関し必要な事項について（諮問）。 杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例第2条の規定に基づき、以下のとおり諮問いたします。 諮問内容。杉並区における男女共同参画の取組をジェンダー平等の視点から発展させ、ジェンダー平等社会の実現に向けて更なる推進を図るための今後の課題、目指すべき未来像、それを実現するための方策について。 答申予定時期は令和7年9月でございます。よろしく願いします。
村松会長	区長、どうもありがとうございました。今、諮問を頂きました。区のジェンダー平等の視点、ジェンダー平等社会の実現に向けてさらなる今後の課題、未来像、実現するための方策。大変大きな課題を頂いておりますので、これから皆様のご協力を得て、それを形あるものにしていきたいと思っております。ありがとうございました。 区長はここでご退席ということになっているかと思っております。ありがとうございました。
杉並区長	それでは、よろしく願いいたします。
村松会長	ありがとうございました。 それでは次第8「議題及び報告事項等」に移ります。まず、資料の確認を事務局からお願いいたします。
区民生活部男女共同参画担当課長	それでは、資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、一部を除きまして事前にご送付をさせていただいております。本日はお送りした資料をお持ちくださるようお願いしてはございますが、もし足りない資料がございましたら、事務局のほうにお申しつけください。先ほど御覧いただいております本日の次第の下のほうに、配付資料一覧ということで資料のご紹介をしております。こちらの資料と照合する形で確認をさせていただきます。 まず次第ですね。こちらに通番はございません。その次に資料1として審議会の「委員名簿」がございます。その裏に席次表がございます。資料2は「事務局名簿」。それから資料3は、「杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例」です。資料4は「ジェンダー平等に関する審議会を傍聴される方へのお願い」という資料です。足早で申し訳ありません。資料のご説明を続けさせていただきます。資料5はこの審議会に関する「開催スケジュール案」となっております。おめくりいただきまして、片にホチキス留めの資料、表紙にグラフが書いてある資料がございますが、こちらは「杉並区基礎資料」でございます。それから資料7として、冊子のようなものが2冊、皆様のお手元にあるかと思っておりますが、こちらは「杉並区資料『すぎなみ産』」という冊子で、創刊号とV o 1. 7ということで、第7号の2冊をおつけしております。資料8は「杉並区総合計画・実行計画に関する資料（一部抜粋）」、コピーとしてお渡ししております。そして、資料9は「審議テーマについて」と表紙に書いてあるものになります。さらに資料10は「杉並区性の多様性が尊重される地域社会を実現するための取組の推進に関する条例」となっております。続きまして、資料11は「杉並区パートナーシップ制度に関する規則」です。

	<p>そして資料 12 は、「杉並区パートナーシップ制度利用の手引」をおつけしております。そして最終、資料 13 が諮問文の写しとなります。</p> <p>続きまして、参考資料 3 点となります。これは事前にお送りしたものがあるかと思しますので、お手元にはございますかどうかの確認、なければ事務局にお申しつけください。</p> <p>参考資料の 1 といたしまして、「杉並区民意向調査（要約版）」というものをコピーでお渡ししております。それから、こちらもコピー資料ですが、参考資料 2 として「杉並区区政施行 90 周年記念誌」の抜粋。併せて、これは 1 枚の資料になりますが、参考資料 3 として、「男女共同参画統計リーフレット」をお渡ししております。</p> <p>すみません、資料が多くなっておりますが、冊子資料 2 点、最後に確認をさせていただきます。これは事前送付させていただいているものですが、冊子資料として、「杉並区男女共同参画行動計画」の冊子。それから少し分厚いものですが、「男女共同参画に関する意識と生活実態調査報告書」ということで、以上、配付資料一覧、全てとなっております。</p> <p>資料が多くて大変申し訳ございません。もし不足のものがございましたら、事務局のほうに予備がありますので、お声がけいただけましたらお届けいたしますのでお申しつけください。資料の確認は以上となります。会長、よろしく願いいたします。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。以上、大丈夫でしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら、「議題及び報告事項等」についてご説明をお願いいたします。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>それでは、「議題及び報告事項等」についてご説明を申し上げます。次第に記載がございますように、本日は 4 つの議題及び報告事項を設けております。(1) から (3) までは主に事務局からご説明する内容となります。そして (4) 審議テーマについてというところにつきましては、皆様に次回以降のテーマと進め方についてご審議を頂く時間を設けたいと考えております。</p> <p>本日はこの 4 番に十分なご審議を頂けますよう、1 時間ほどの時間を議論に充てたいと考えておりますので、長い時間になりますので、3 番までが終わったところで 5 分ほど休憩を入れさせていただきたいと考えております。以上のような進行でよろしくお願いいたします。</p> <p>よろしければ、このまま議題 1 のご説明に入らせていただきます。</p> <p>議題 1 は「杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例及び審議会運営について」となっております。資料 3 の「杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例」と、資料 4 「審議会を傍聴される方へのお願い」をお手元にご用意いただければと思います。</p> <p>それでは、まず資料 3 「杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例」のご説明をさせていただきますが、まずそのご説明に先立ちまして、本日この本審議会の設置に至った経緯について簡単にご説明をさせていただきます。</p> <p>先ほど区長からも皆様にお伝え申し上げましたように、社会の変化、人々の意識の変化、その中で杉並区は固定的な性別役割分担意識や性の多様性に関することなど、多くの課題に直面していると考えております。先ほどお話ありましたように、昨年度実施した調査でもそれらの課題が表れていると考えております。そこで、それらの課題を一体として捉えて、ジェンダー平等が実現した区の未来像を描き、今後さらなる取組の推進を図るべきとの考えから、令和 6 年度第 3 回区議会定例会で審議会設置の条例案を提案、可決成立し、本日第 1 回審議会の開催に至った次第でございます。</p> <p>それではまず、審議会条例のご説明に入らせていただきます。改めて</p>

資料3をお手元に御覧いただけますでしょうか。読み上げとなりますけれども、本審議会の運営に関する重要事項、記載されておりますので、資料を御覧になりながらお聞きいただければと思います。

杉並ジェンダー平等に関する審議会条例の第1条、杉並区におけるジェンダー平等の実現に向けた取組に関し、必要な事項を調査審議するため、区長の附属機関として、杉並ジェンダー平等に関する審議会（以下審議会という。）を置く。

第2条、審議会は区長の諮問に応じ、杉並区におけるジェンダー平等の実現に向けた取組に関し必要な事項について調査審議し、答申する。

第2項、審議会は、前項に規定する事項に関し、区長に意見を述べることができる。

第3条、審議会は、次に掲げる者につき、区長が委嘱する委員12人以内をもって組織する。(1) 区民。(2) ジェンダー平等に関する団体の関係者。(3) 学識経験者。(4) その他区長が適当と認める者。

第2項、委員の任期は、前条第1項の規定による答申が行われた日（以下、答申日という。）までとする。

第4条、審議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

第2項、会長は審議会を代表し、会務を総理する。

第3項、審議会に副会長1人を置き、会長が指名する委員をもってこれに充てる。

第4項、副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときには、その職務を代理する。

第5条、審議会は、会長が招集する。

第2項、審議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

第3項、審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

第4項、審議会の会議は、公開とする。ただし、審議会の議決があったときは、非公開とすることができる。

第6条、審議会に、特定の事項について調査審議するため、部会を置くことができる。

第2項、部会の委員及び部会長は、第3条第1項規定する委員のうちから、会長が指名する。

第3項、部会の会議は、公開とする。ただし、部会の議決があったときは、非公開とすることができる。

第4項、前3項に定めるもののほか、部会について必要な事項は、審議会が定める。

第7条、審議会及び部会は、調査審議のため必要があると認めるときは、委員以外の者を出席させて意見を聴き、又は委員以外の者から必要な資料の提出を求めることができる。

第8条、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附則。第1項、この条例は、公布の日から施行する。ただし、附則第4項の規定は、答申日の翌日から施行する。

第2項、この条例は、答申の翌日に、その効力を失う。

第3項、杉並区附属機関の構成員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和50年杉並区条例第31号)の一部を次のように改正する。

別表区長の部に次のように加える。

杉並区ジェンダー平等に関する審議会、会長月額1万4,500円。委員月額1万2,000円。

第4項、杉並区附属機関の構成員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を次のように改正する。

別表区長の部杉並区ジェンダー平等に関する審議会の項を削る。

以上、大変長くなって申し訳ございません。審議会条例についてご説

	明をさせていただきました。こちらのご説明、以上となります。
村松会長	ありがとうございました。ただいまご説明のありました審議会条例に関して何かご質問とかご不明な点はございますでしょうか。おありでしたら挙手してご発言ください。よろしいでしょうか。大丈夫ですね。では、説明を続けてください。
区民生活部男女共同参画担当課長	続いて、審議会の運営についてご説明をいたします。今ほど審議会条例第5条第4項でご説明差し上げましたように、本審議会は公開でございます。審議会の記録及び資料は、区のホームページで公開されます。資料につきましては、審議会の各回終了後、1週間ほどをめぐり、会議録につきましてはもう少し先になりますけれども、発言の要旨をまとめて作成し、委員の皆様のご確認を頂いた後に、公開をさせていただきます。なお、会議録は発言者氏名が記載されるものとなっております。本日は会議録作成のため録音をさせていただいておりますが、音声の公開はございません。審議会の運営、公開に関するご説明は以上となります。
村松会長	ありがとうございます。今、ご説明がありました審議会の公開について、ご意見やご質問などございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。よろしいですね。
岩田委員	ご説明ありがとうございました。少し聞き飛ばしてしまったので、議事概要を公開されるということで、議事録ではないのですかね。
区民生活部男女共同参画担当課長	要旨とは今申し上げましたけれども、かなり全文に近いものといえますか、通常の議事録はかなり長いものとなっております。よく、かなり短くまとめたものがあるかと思いますが、この審議会においては内容がしっかり伝わるような議事録という形で皆様にまず御覧いただく形になると考えております。
岩田委員	分かりました。ありがとうございます。
村松会長	よろしいでしょうか。ありがとうございました。ほかはいかがですか。では、説明を続けてください。
区民生活部男女共同参画担当課長	続きまして資料4のほうをお手元に御覧いただけますでしょうか。「審議会の傍聴される方へのお願い」というものでございます。本資料につきましては、事前資料送付の際、委員の皆様方には既にお送りしている内容でございますが、本日はその内容を皆様と確認させていただきたいと考えております。まず、審議会の傍聴される方をお願いいたしますのは、委員の皆様方が自由に発言をされ、議論を行い、杉並区におけるジェンダー平等の実現に向けた取組に関し十分な議論を行っていただくための場を設けるものと考えております。本日、既にお入りいただいております傍聴人の皆様におかれましても、審議会の円滑な運営にご協力を賜りますようお願い申し上げます。では、資料4の内容について確認をさせていただきます。この資料は、御覧いただきますように、「傍聴ルールについて」と「会議資料について」、この2つの項目から構成されております。傍聴人の皆様にもご入室前に同じ資料をお渡ししております。傍聴される方には名簿に氏名、住所をご記入いただき、係員の指示に従っていただきますように、また、審議の妨げにならないように指定の席で静かに傍聴いただけますようお願いしております。その際は審議の妨げにならないよう、6つの項目をお守りいただけるようお願いしております。6つの項目について申し上げます。(1) 審議における言論に対して、拍手、鉢巻、腕章等着用、不要な離席等による意見表明をしないでください。(2) 大きな声を出したり、騒ぎ立てる等の審議の妨害をしないでください。(3) 飲食・喫煙をしないでください。(4) 携帯電話、パソコ

	<p>ン等の取り扱いに関しては、係員の指示に従ってください。(5)以上のほか、審議会の秩序を乱し、又は審議の妨害となるような行為をしないでください。このような行為を行った場合、会長は傍聴者に対して退場を命じることができることとします。(6)傍聴席における写真(静止画)撮影は、会議冒頭に限ります。ただし、下に※印がございしますが、この第1回においては、審議会進行中、運営事項案内時に、会場のほうで撮影時間を設けます。また、撮影に関しては、別紙により申請の上、審議会の決により許可をするものとしたします。動画撮影及び録音、動画配信等はできません。</p> <p>今、申しあげましたように、本日の静止画撮影につきましては、会議資料についてまでの説明を終えたところで会長のほうから指示を頂くことにいたします。</p> <p>では、「会議資料について」をご説明させていただきます。会議資料は、原則として貸出となります。閉会后、受付職員にご返却いただきます。会議資料を持ち帰る場合にはコピー代金をお支払いいただきます。閉会后、必要な資料名を受付職員までお申し出ください。なお、会議資料は本日、席上配付のものを除き、後日、区ホームページで公開をいたします。公開後は資料のダウンロードも可能となります。</p> <p>会議資料についてのご説明は以上となります。</p> <p>本日、撮影の申請はお一人から頂いております。</p> <p>ご説明は以上となります。</p>
村松会長	<p>ここまでの議題(1)の今ご説明いただいた内容について、ご意見やご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>では、ここでお諮りするのですね。先ほどお伝えしておりました傍聴席における静止画の撮影について、委員の皆様にお諮りしたいと思います。今説明あったように、傍聴者のお一人から撮影の申請が出ております。時間を限ってということですが、これを許可するということがよろしいでしょうか。よろしいですか。</p>
櫻井委員	<p>写真を撮ったものがどのように活用されるのかというのが少し気になるのですけれども、それは。</p>
村松会長	<p>例えば事前に伺うことできるのでしょうか。どのように使われるかということなのですか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>撮影につきましては、この場において審議の進行の妨げにならないように機会を設けているということでございますので、お撮りになった写真のその後の活用については、審議会のほうでは特に制限を設けているものではございません。</p>
村松会長	<p>そういう説明ですが、いかがでしょうか。</p>
櫻井委員	<p>特に何か悪用されるということはないかなと思っはいるのですけれども、最近、私も活動とかする中で、やっぱり一部分、発言を切り取られ、写真を発信されてということもあったりするので、そういったところが気になって質問させていただいた次第です。</p>
村松会長	<p>懸念が残るということですが、いかがいたしましょうか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>分かりました。どのように用いられるかというのをお聞きできればよろしいでしょうか。</p>
櫻井委員	<p>そうですね。何か聞けると安心だなと思いました。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>今、審議会の進行の中ですので、後ほどお話をさせていただくという形でよろしければと思いますが、大丈夫でしょうか。</p>

岩田委員	岩田でございます。今、事務局でおっしゃられたことは、一旦休憩を挟んで、その休憩時間中に撮影希望者の方と事務局で話をされるということですかね。
区民生活部男女共同参画担当課長	そうですね。議題の(3)と(4)の間ですね。休憩ということでもかなり短い、5分程度、息抜き程度という形で考えておりましたので、その時間でお話できるかどうかかなのでけれども、ご要望といたしましては、そのお時間でお話できたほうがということでしょうか。
岩田委員	その目的について、どこに流すのか。顔写真を流すのかどうかというご要望を聞いて、それについて可否を審議会で判断しなければいけないと思います。その流れにすれば、ご要望を踏まえつつ、審議会の議事が進められるのかなと思った次第です。
区民生活部男女共同参画担当課長	分かりました。ありがとうございます。今ご指摘いただきましたように、議題(4)に入るまでに少し休憩時間を設けますので、その際に申請あった方とお話をさせていただきまして、その後の撮影を可能にするかどうかについては、そのときの内容によってということと諮らせていただければと思いますが、そちらでいかがでしょうか。
岩田委員	よろしいかと思います。ありがとうございます。
村松会長	撮影希望者の方、後刻、もう1回、休憩時間にその辺を確認させていただいてから撮影の時間を設けるということを進めたいと思います。それでよろしいですか。
区民生活部男女共同参画担当課長	事務局のほうでお話をさせていただきます。ありがとうございます。続きまして、議題の(2)ですね。「審議会の開催スケジュール案」の説明に入らせていただいても大丈夫でしょうか。
村松会長	お願いいたします。
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>それでは、お手元に「開催スケジュール案」と書かれた資料をご用意いただけますでしょうか。こちらに本日、第1回、1月27日、本日の日付が入っております。この中の日程のほうをまず御覧いただきたいと思っております。先ほど区長のほうからもお話あったかと思っておりますけれども、本審議会は計8回の開催を予定しております。御覧いただきますようにタイトな日程でございますが、月1回のペースで8月末まで8回の審議を行い、その後、答申を頂く日にちを、この第8回の数日後ぐらいに別途、答申をお渡しいただくセレモニーのような形で設けたいと思っておりますので、この8回の審議会は全てしっかりとした審議に充てたいと考えております。</p> <p>日程を既にお出ししておりますのは、皆様いろいろ先々までのご予定がおありかと思っておりますので、日程が見えていたほうがご調整がやりやすいかということで、事務局のほうで設定をさせていただいておりますが、例えば、もうこの日は既に駄目だというところがありましたら、また本日終了後に事務局にメール等でご連絡を頂ければと思います。半数以上の参加が成立要件ですので、もし多くの皆様がこの日程はというところがありましたら、再調整をさせていただく場合もございますので、一旦この日程をまずご検討いただいてというところをお願いしたいと思っております。ただ、直近、2月の日程につきましては、来月のことでありますので、最後のところの連絡事項の中で皆様のご都合を伺えればと考えているところでございます。</p> <p>この右側の審議内容につきましては、後ほどまた別途資料のほうで進め方のご説明をさせていただきますので、ここで一旦この資料5のご説明は終了とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
村松会長	では、日程のご都合については別途各自から事務局のほうへご連絡いただくことといたしますけれども、それ以外で議題2についてご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

	<p>そうしましたら、議題（3）検討用基礎資料に移ります。事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>区民生活部男女共同参画担当課長</p>	<p>それでは、資料6ですね。「検討用基礎資料」ということで、この杉並区基礎資料についてご説明を申し上げます。先ほど自己紹介のときにもお話しいただいた方もいらっしゃると思いますが、委員の方には、公募で選ばれた区民の方がいらっしゃいますし、そのほかの方にもいろいろな形で杉並区にご縁があったこと、お話を頂きました。今回、この杉並区におけるジェンダー平等の実現に向けた取組についてご審議を頂くに当たり、この杉並区という地域社会、そして杉並区民について委員の皆様を知っていただきたいという気持ちがございます。本日の資料は、人口、世帯構成、職業など、ごく基礎的なものではございますが、皆様の区へのご理解にお役に立てばと考えております。</p> <p>それでは、簡単にご説明させていただきます。まず、資料6-1、1枚目、「東京23区各区の人口」のページを御覧ください。これは東京23区の人口、令和6年12月1日現在のものを示したものでございます。杉並区は57万7,564名で7番目、最も人口が多い世田谷区よりは約35万人少なく、また同じく50万人台の区としましては、6番の板橋区、8番の江東区がでございます。</p> <p>次のページを御覧ください。こちらは「東京23区昼夜間人口及び人口比率」で、各区の昼間の人口と夜間の人口を併記したものです。下から、練馬区、江戸川区、葛飾区、杉並区となりまして、昼間の人口が49万8,067人、夜間人口が59万1,108人ということで、差が約9万3,000人ですね。昼間人口の夜間人口に対する比率が84.3%です。一番上の千代田区が、1355%というところと比べますと、例えば働く地域と住まう地域という捉え方をした場合には、杉並区はやはり住まう地域という色合いが濃いのではと捉えることができるかと思えます。</p> <p>続きまして、3ページ目を御覧ください。こちらは「住民登録者推移」ということで、ほぼ人口なのですけれども、令和2年以降はほぼ横ばいと御覧いただけるかと思えます。ただ、もう少し広いスパンで見ますと、平成6年、杉並区の人口は50万7,233人でしたので、30年間では約7万人増加しているということになります。ここ数年は横ばいになっています。</p> <p>続きましては、いわゆる人口ピラミッドというものをお示ししております。比較として並べておりますが、右側の全国のグラフを御覧ください。いわゆる中高年齢層の人口が多いつぼ型といわれるものですが、左側の杉並区は少々形が変わっております。クリスマスツリーに見えるかもしれませんが、杉並区はこの若年層ですね。25歳から29歳のところでぐっと人口が多くなっております。この突起は全国のグラフと違うところかと考えられますが、あくまで推測ではございますけど、杉並区、この世代の若者にとって住みよいまちという特徴があるのかもしれない。あくまでこの数字から見たものということになります。</p> <p>次のページを御覧ください。こちら令和2年の国勢調査からのものとなりますが、杉並区民の世帯構成を右側に参考まで、特別区と比較したものとしてお示しをしております。夫婦のみ、夫婦と子、一人親と子、非親族を含む世帯、その他複数世帯とありますけれども、形としては杉並区と特別区、よく似た割合を示しているようにも見えますが、両方単身が5割を超えているという特徴があり、単身におきましては杉並区のほうが特別区全体よりも5%ほど多いと御覧いただけます。単身と申しましても、多様な属性の方がいらっしゃると思いますが、区民の6割が単身ということは、1つのトピックと言えるかと思えます。</p> <p>そして次のページは、こちらは「杉並区民の就業状況」となります。事務職、技術職、労務職、サービス職、いわゆるお勤めの方というのが大体51.7%で約半分、次に多いのが無職の15.3%、その他を除いて多い</p>

順に申し上げますと、主婦・主夫と書いてありますけれども、こちらが14.4%、自営業・事業主の10.4%、自由業の2.5%、学生の2.3%となります。

この資料はここまでなのですが、他の資料の中から1つ出していただきたいのが、参考資料として「区政に関する意識と実態(要約版)」というものがあるかと思えます。そちらお手元に御覧いただくことはできますでしょうか。そちらの1ページを御覧いただきますと、1番の「定住性と生活環境について」とある下に、「定住意向」と書かれております。住み続けるつもりと、当分の間は住み続けたいの合計が定住意向なのですけれども、こちらが合計で86.5%、約9割という高い数値が出ております。

その下に「住みやすさ」というところで書かれている質問では、「住みよい」と「まあまあ住みよい」の合計が95%と、こちらも非常に高い数値が出ておまして、つまり杉並区民にとっては、杉並区は住みやすく、定住したいまちと思われていると考えることができるかと思えます。そして、この同じ調査では、お手元に記載はないのですが、概要版ではなく完全版のほうでは、20年以上住んでいらっしゃる長期居住者は53.9%。住み続けたい理由として、住み慣れているから、自分の家や土地だからという2つが上位を占めているというところで、杉並区民の杉並区に対する愛着が強いとも見て取れるのかなと考えております。

そして、ご説明が長くなってすみません。産業という面では、先ほどお話ししましたカラーの冊子ですね。「すぎなみ産」という2冊の冊子があるかと思えますが、杉並区に拠点を置きまして世界で存在感を示している企業というのも多くございます。お手元の2つの特集ですね、表紙にありますのは、1つは光をエネルギーとして蓄えて、暗くなっても輝き続ける特性を生かして、時計の文字盤から針まで、それから非常口標識まで、幅広く使用されている蓄光顔料のトップシェア企業である根本特殊化学さん。それからオリンピック選手からまちの愛好者まで、世界の幅広いプレイヤーに卓球用品を提供しているタマスさんなどがございます。その資料、大変に読み応えがある内容ですので、よろしければまたお目通しいただければと思います。

ご説明はほぼ以上となりますが、ここまで数値やグラフで区についてお伝えをしてきました。人口の規模感や年齢層の特徴、世帯構成や就業状況について少しイメージいただけたかと思えます。杉並区誕生からの歴史につきましては、別途の資料、参考資料2の杉並区区制施行90周年記念誌にかなり詳細なものがございますので、よろしければそちらを御覧ください。

続きまして、杉並区の行政についてもご説明をさせていただければと思います。資料8「杉並区総合計画・実行計画」と書かれているコピーをお手元にご用意いただければと思います。こちらをご説明させていただきます。杉並区では、令和3年10月に策定した杉並区基本構想で、おおむね10年後を展望したまちの姿を「みどり豊かな 住まいのみやこ」としております。そしてこの実現のために総合計画・実行計画を推進しております。

表紙をおめくりいただけますでしょうか。折りになっておりますので、この折を広げていただければと思います。その左側のページのほうを御覧ください。この基本構想では、こちらに分野ごとの将来像と中ほどに記載がございますけれども、8つの分野の将来像を描いております。私どもが取り組む施策は、この上から5番目の福祉・地域共生、「すべての人が認め合い、支え・支えられながら共生するまち」となっております。

続きまして、今、広げていただいた折をめくっていただいて、裏面を御覧いただけますでしょうか。裏面のほうはこの「計画の体系図」、「計画期間」となっております。これは区の計画の体系図、期間ということ

	<p>でまた御覧いただければと思います。</p> <p>続きまして、その右側のページの折りも広げていただいて、この「SDGs と区の取組について」というページを御覧いただけますでしょうか。この図では区の計画のSDGs の対応関係を示しております。世界規模の課題と地域の課題がつながっているという認識に立ちまして、各計画、事業を推進しているということ、この資料ではお示ししております。それぞれの施策でSDGs のゴールのどれに相当しているかということが一覧表になっておりますが、施策 14 はこの裏面にありますので、この裏面のほうを御覧いただければと思います。</p> <p>上から6つ目に施策 14「人権を尊重する地域社会の醸成」というのがございまして、こちらに関係するSDGs のゴールは4番、5番、8番、10番、16番、17番となっております。そして、足早のご説明で恐れ入りますが、最後のページ、左肩に「第2章福祉・地域共生」と書かれているページを御覧ください。こちらに施策 14「人権を尊重する地域社会の醸成」とありますように、私どもが取り組む施策の大きな枠組みとなっております。この見出しの下の記載にございますように、この施策では、「人権とは、誰もが生まれながらに等しく持っている、人として幸せな生活を営むための権利」であるとして、その権利が尊重される社会を実現するために、差別や偏見のない、多様性を認め合う意識の醸成に取り組んでおります。そのために行っております施策の現状と課題、そして計画最終年度の目標について、以下に記載がございます。この内容についても後ほどの説明でまた振り返りますので、こちらのご説明は以上とさせていただきます。</p>
村松会長	<p>大変な詳細なご説明だったと思います。紹介し切れないかもしれませんが、検討用の基礎資料についてということで、行政の取組とそれ以前の基礎資料みたいなどころと分けましょうか。基礎的なデータのお示しがありましたけれども、そこまでで何かご質問などございますでしょうか。膨大だったので消化し切れていないかもしれないと思うのですけれども。</p>
岩田委員	<p>基礎資料の中で感想程度ですけれども、感想としましては、基礎資料の最終ページ、杉並区民の就業状況という数字を見て「へえ」と思いました。というのは、働いていらっしゃる方がざっと見ると8割近くいらっしゃる。多いなど。ほかの23区の平均などと比べて分かったらお示してください。</p> <p>それから、またこれも意外だったのが、学生の方が2.3%、少ないなと思いました。これも23区でほかと少し比べてご紹介いただければ幸いです。質問でございます。以上です。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>今調べて、後ほどお答えさせていただければと思いますが、大丈夫でしょうか。</p> <p>今、すみません、事務局のほうから、学生については調査の母集団が満18歳以上ということですので、大学生以上を対象にしているため、数が少ないということになっております。</p>
村松会長	<p>人口ピラミッドのときに若い層が割りに多いと伺ったので。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>25歳から29歳の社会人になられて少し、数年たって、その山からまた少し減るということがありまして、家庭を持たれたときにまた一旦出られるのかなという見方もありまして、あくまで1つの事例として御覧いただければと。</p> <p>今1つご質問があった部分としての確認なのですが、この就業状況で働く人が多いなというご感想があったところで、ほかの区と比較してどうなのかというご質問でよろしいでしょうか。</p>
岩田委員	<p>はい。それが1つと、あとは学生の割合がほかの区と比べて多いのか</p>

	少ないのか、同じようなものなのかということをお教えいただければ幸いです。別に今でなくても、次回でも構わないです。よろしくお願いいたしますします。
区民生活部男女共同参画担当課長	分かりました。それでは、改めてお答えをさせていただきたいと思えます。今お答えできなくて申し訳ございませんでした。
岩田委員	ありがとうございます。
村松会長	では、また別途お答えいただくということで、別途ということは次回以降という感じですか。
区民生活部男女共同参画担当課長	このお時間の中で調べられればお答えしたいと思いますですが、空いている時間等で調べたいと思えます。
村松会長	ほかにはいかがでしょうか。
山田委員	今聞いた所なのですけれども、幾つか学生の割合について国勢調査の人口ピラミッドでは若い人が多いのに学生が少ないというのは、多分母数が杉並区民ですよね。まず1つは、うちの大学の学生に聞いてもそうけど、一人暮らししている人は住民票を移さない学生が多いというのが1つだと思いますし、これは各先生、ご専門の、いわゆる回収率が相当悪いというのがあるので、もしこういう形で比べるのでしたら、しっかり国勢調査で、職業分類で統計を取らないと、ほかの区と比べてどうかというのは多分言えないかなという気はします。ほかの区で同じ形でサンプリング調査をしている区は少ないと思えますので、比較はかなり慎重にしたほうがいいかなとは思えます。
区民生活部男女共同参画担当課長	ありがとうございます。おっしゃるとおり世帯構成のほうは国勢調査を基にしているのですけれども、就業状況のほうは区民意向調査ということで全数調査ではないものですから、もしかしたら同じベースでの比較の資料は難しいのかもしれませんが、類似できる資料があれば、探してみたいと思えます。山田委員、ありがとうございます。
村松会長	区内にも結構大学、何校もあつたりしますけれども、必ずしも住民登録していないという人もいるということなのでしょうかね。実態人数は分からないけれども、またその辺も少し調べていただいて、ご報告があればお願いしたいと思えます。山田さんもコメントありがとうございます。 ほかには何かありますか。データだといろいろ細かいことを見ると、いろいろなことがきつと気になるところが出てくるかもしれませんが、これもまた事前にもお送りいただきましたけど、見ていただいて、これから議論の中で関係がありそうなことで質問があつたらまた出していただくようなことでもいいのではないかなと思えますが、よろしいでしょうか。すみません、勝手にこんなことを言ってしまったけど。 では、私も資料がどこか行ってしまった。進行表を忘れてしまいました。
区民生活部男女共同参画担当課長	今、次第のほうで議題の3まで進めさせていただきましたので、次は議題の(4)になります。
村松会長	では、今何時。7時半。ここで休憩入れますか。以上で議題(3)までご説明が終わつたということで、(4)以降というか、(4)が大事になってきますので、そこに時間をかけたいという区のご意向がありましたので、先ほどの撮影のことについてもご相談いただきたいと思います。少し進行早めかなと思えますけど、5分でいいですか。10分とりましようか。

区民生活部男女共同参画担当課長	そうですね。10分でお願いしてよろしいでしょうか。
村松会長	では、今、私の時計で7時30分を少し回ったところ、7時40分開始ではどうでしょうか。
区民生活部男女共同参画担当課長	ありがとうございます。よろしくお願いいたします。
村松会長	では、それまで休憩したいと思います。お疲れさまです。
	(休憩)
村松会長	そうしましたら、これよりまた再開したいと思います。再開するに当たりまして、さっきご質問があった件について、ご説明を聞いてくださったそうですので、課長からご説明ください。
区民生活部男女共同参画担当課長	事務局からご説明をさせていただきます。撮影の申請を頂いた方にお話しをさせていただきました。用途につきまして、櫻井委員にもご説明をさせていただきました。傍聴席からの撮影ですので、引きで撮って、審議会が始まりましたという発信にお使いになればということで伺いまして、櫻井委員にお話しをして、ご了解を頂いたと考えておりますがよろしいでしょうか。撮影のご許可に関して、櫻井委員の先ほどの質問に関しては問題ないのご了解を頂いたと考えております。
村松会長	質問者からもご了解いただいたということで、ほかの委員の方もそれでよろしいでしょうか。 それでは撮影を許可いたします。こちらが終了ですと申し上げるところまでの間に撮影をお願いします。
	(写真撮影)
村松会長	ありがとうございました。 では、次の議題に移ります。引き続き審議会の円滑な運営についてご協力をよろしくお願いいたします。 では、議題(3)までが終わったところですので、議題(4)に入りたいと思います。冒頭に事務局からご説明がありましたように、議題(4)審議テーマについては、皆様に次回以降ご審議いただくテーマと進め方についてご審議いただくものです。そのため、十分にご審議が頂けるよう、1時間程度、少し早めに進行してはいますが、1時間程度しっかり、じっくりと意見交換したいと思っております。テーマを検討するための資料として、事務局から資料9「審議テーマについて」が提示されております。この資料は、今後取り上げていく課題やテーマについて、ご審議いただく場での基礎資料、たたき台という位置づけだそうです。 区長から諮問がございました、「杉並区における男女共同参画の取組をジェンダー平等の視点から発展させ、ジェンダー平等社会の実現に向けて更なる推進を図るための今後の課題、目指すべき未来像、それを実現するための方策」と諮問を受けました。答申いただく道筋を、この資料をベースに、本日皆さんと考えていきたいと思っております。今後の進め方の基礎になるかと思っておりますので、ぜひ活発なご議論を頂きますようお願いいたします。 では、事務局から資料の説明をお願いいたします。
区民生活部男女共同参画担当課長	ありがとうございました。お手元の資料9、「審議テーマについて」ですが、簡単にご説明をさせていただきます。現在、区が直面している課題について調査や資料等をまとめまして、そこから審議テーマについてのご提案をしているものですが、今ほど会長からお話ございましたように、あくまでたたき台的なものと考えていただき、こうではない、もし

くはこのような表現ではない、捉え切れていない課題がまだあるのではないかというようなことなども含めて、本日は忌憚ないご意見を頂ければと考えております。

では、資料のご説明に入らせていただきます。表紙をおめくりいただいて、2ページと3ページ、2種類の資料が左と右に入っております。左側は、先ほど行政の資料でお示ししたのですが、杉並区総合計画の施策14についてのご説明をこちらに転記したものとなっております。それぞれの現状と課題、計画最終年度に向けた目標に向けて書かれています。これが今、行政の大きな取組の内容となっております。

右側のほう、こちらは男女共同参画行動計画、令和4年度から令和12年度まで9年間、現行進められているものの中の基本的な体系をお示ししているものです。「誰もが共に認め合い支え合い いきいきと輝ける杉並のまち」という理念の下に、やはりこちらSDGsの関係において、ジェンダー平等の視点を重視して構築されております。

右側のページに、「5つの取組方針」と書かれておりますが、これが現行の杉並区の男女共同参画行動計画の大きな5つの柱とお考えいただきたいと思っております。

そしてこの5つの柱に、おめくりいただきまして、「16の取組項目」というものがひもづいております。大きな5つの柱があり、そこにひもづく16の取組項目があり、それに基づきまして、実際の事業として52の事業がひもづいており、それが全体として、杉並区の男女共同参画行動計画となっております。ですので、今お手元にお示ししてあるのは杉並区全体としての男女共同参画の取組が含まれる大きな取組のご説明、そして男女共同参画行動計画自体の全体の枠組みに関してご説明をするといった資料となっております。

そして5ページを御覧ください。こちらは、「男女共同参画に関する意識と生活実態調査」ということで、お手元にも紫っぽい冊子があるかと思いますが、3年に1回大きく行う調査ということで実施したものでございます。そちらの中から特に、先ほどより申し上げております固定的な性別役割分担意識や男女平等意識、それからめくっていただきまして、性的マイノリティの人権や事実婚カップルの関係性について、そして、男女共同参画社会を実現するために区に望むものという区民の声の結果について、一部を抜粋する形でお示しをしております。

今申し上げた3種類の資料、今、区のほうで、主に男女共同参画の取組を見るに当たってベースとなる資料と考えておりますが、それらの中から見いだされる区の課題は何かということで、これはあくまで事務局のご提案ですが、7ページにあります1から6までのテーマ、課題を見いだしたということで御覧いただいております。

そして、一旦全体の説明に移らせていただきますが、8ページ目、めくっていただきまして、それを審議テーマ案ということで、4つにまとめた図となっております。これは最終ページ、9ページの「審議会の進め方とスケジュール案」とございますけれども、この審議会8回の中で、答申に向けた進行を行う中で、ご提案としましては、前半4回くらいで個別のテーマを行い、そこで区の課題を見いだしながら、どのような未来像に向かうべきか、どのような方策が、区としての取組があり得るのかという議論を各テーマで行い、それを総括した後に、答申に向けて審議を進めるというスケジュール感がございまして、その場合に大きく4つのテーマに先ほどの6つを含めることができるのだろうということで、キーワードという形でテーマをまとめたご提案となっております。

これはあくまで、まず杉並区の資料や調査等から見いだせるテーマということで、資料として提示したような形になっておりますが、今後、杉並区全体のジェンダー平等の実現をご審議いただくに当たって、これを基に、ではどのようなテーマ、ここに書かれていないものがあるので

	<p>はないか、もっとこういうことをきちんとやっていかなければいけないのではないかとというようなご意見を頂きながら、第2回以降の進め方について、1つ方向性が見いだせるかなと。この議論から見いだせればと考えております。</p> <p>事務局からのご説明は以上となります。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。その前に私がさっき進行の中で、検討用基礎資料についてご説明いただいたのがたくさんあったので、一般的な話と、それから行政資料のところを分けましょうと言いながら、行政のところについてご意見、ご質問を頂かなかったのですけれども、今のお話の冒頭と重なっているかと思うので、ご質問があったら、それも含めてお願いできればと思います。</p> <p>この後たっぷり時間があるのですが、この後の議論の進め方についてご意見がもしおありだったら、こんなふうにして進めていったらいいのではないか。ちょっと茫漠としているかもしれないのですけれども、何かご提案ありますか。私が腹案を持っているわけでは全然ないので、どこから自由に始めても構わないかなと思います。自由討論というので、今日は第1回ということで、皆様の関心も分かるかなと思いますので、それぞれのところからご意見やご質問を出していただくというのでもよろしいですか。そのほうがあまり堅苦しくなくできますでしょうか。</p> <p>そうしましたら、先ほどの行政のほうの課題も含めて、ご質問でもいいし、ご意見でもいいので、何かありましたらどうぞお出しになってください。</p>
岩橋委員	<p>藤岡さんが公募で入られたけれども、女性支援の活動をなさっていて、社会構造が問題なのに自分を責めてしまうところをもう少し、これがというところをちょっと話していただけるといいのかなと。</p>
村松会長	<p>では、ご指名がありましたので藤岡さん。私、みんな「委員」と言わないで、みんな「さん」で呼んでいますけど、大体私はこういう進行をやっているの、藤岡さん、よろしくお願いします。</p>
藤岡委員	<p>ありがとうございます。ちょっとさっきぼかしてしまったのですけれども、今、シングルマザーの支援を活動としてはやっています。というところで、シングルマザーといってもDVから逃げてくる、DV避難をされてきた、まだ離婚が成立していないような方がすごく多いところになっています、私たちが支援しているのは、いろいろあるのですけれども、やっぱり小さいお子さんを抱えていたりすることが多いので、やっぱり暴力を受ける私が悪いみたいな気持ちで相談に来られる方がすごく多くて、いやいや、そういうわけではないでしょうと。どうしてもやっぱり働きにくい環境があったりとか、家事・育児負担を強いられているというのは、その家庭の問題というよりは、やはりそこまで生きてきた教育だったりとか、社会、文化みたいなところが根強いのではないかなというのは常々感じていて、それを言っているのは1人ではなく、相談者の方に共通している部分が多いところがあって、そういった部分で感じているところになっています。</p>
岩橋委員	<p>実は、私は1990年から杉並女性団体連絡会に加わっていますという話をしましたが、一番地域の活動を始めたのは、1970年の立正高校の光化学スモッグ事件だったのです。だから本当に反公害、光化学スモッグをどうしようかという公害対策の住民運動だったのです。大気汚染の住民運動をしながら、公民館活動というのが原水爆禁止運動のつながりで、体育館になってしまった、あそこに公民館があって。それで公民館講座というのがあって、そこに関わってきて、だから社会教育の分野だったのです。</p> <p>公民館がなくなって、社会教育センターに移って、社会教育の専門の先生方が指導しながら、公募でやってきた区民が講座を組み立てるとい</p>

	<p>うのをやっていたのですが、そこでいろいろな社会問題を、テーマを出してきて、いろいろな問題にして、私が在日の差別の問題を、テーマをやりたいと言ったときに、いや、それはちょっとナーバスになるからといって反対する人もいたのだけど、支持してくれた女性がいて、彼女は保険の外交員をしながら子どもを育てている方だった。一緒に、本当に楽しく講座を作って、講座が終わりましたで打ち上げをやって、最後の最後、2人切りでお茶を飲んでいたときに、私、本当は女性問題をやりたかった。夫から暴力を受けているという話を聞いたのです。そこで本当に最後の最後、2人になったときに。私たち何やってきたのだろうと思いました。一生懸命、社会教育だ、講座だ、平等だとか、差別反対とか言いながら。そこが私の女性問題の、本当にぐさっときたところの原点なので、ちょっと聞きたかったのです。</p> <p>私たちも、本当に先輩たちすごく、本当に偉い先輩たちがボランティアで、ごみ問題も環境も消費者も関わってきて。主婦なのです。主婦の活動。本当に主婦として、家の中に、暮らしの問題を社会の問題にしていたという先輩たちなのだけど、私たちもう男女平等よねと思っていた。信じていた。選挙権あるしとか、議員も出しているしとか。それが、こんなに楽しく充実していたはずの社会教育の講座を作っていた仲間の中でも話ができなかったのが、夫の暴力を受けていた女性の問題だった。それで杉女連の仲間の中にも、杉女連で活動した後に、杉女連を離れて勉強して、女性相談員になった、何年か女性相談員をしてきた人が、また杉女連に戻ってきて一緒に活動しているのです。だから、一番重いところというか、核のところまで活動していらっしゃるのだろうなと思って、聞きたいなど。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。多分、区が課題として挙げている、困難を抱えている人たちをどう考えていくかですけれども、その実態を把握するのが大変難しい分野でもあるので、その辺の、例えばシングルならシングルマザーだとか、そうしたことに関する実情みたいなデータの把握されているのか、それから相談業務、その辺がどう運営されているか。私も相談センターの中の人選のお手伝いをしたこともありましたが、なかなか難しい問題だなと思っています。困難を抱える女性を行政が支援していくのか、民間が支援していくのかという、そこに大きな問題があるので、行政だけではもちろんカバーできないから連携しなければいけないし、それから率直なところが出せるのかどうなのかというところもありますね。本当にこの問題、非常に大きい、皆さんのような仕事が大切なのだろうなと思っています。</p> <p>ここに関して、区から何かコメントありますか。</p>
保健福祉部計画調整担当課長	<p>保健福祉部計画調整担当課長です。困難女性の問題に関しましては、福祉事務所が中心となっております。女性相談員もおります。女性保護の観点からやっているわけですけれども、今回、困難女性の新法が出来たということもありまして、会長もおっしゃられたように、民間との協働、連携ということが言われてきました。現在も民間の支援施設などとタッグを組んで保護しておりますが、連携関係を強化していかなければいけないというところで、取組を進めるというところに来ております。</p>
村松会長	<p>そういう意味で、民間で相談などをなさっているほうとして、行政に対して要望とか、何かお尋ねになりたいこととかはありませんか。</p>
藤岡委員	<p>ありがとうございます。今、杉並区はどれくらい女性相談に来られているものなのでしょうか。</p>
保健福祉部計画調整担当課長	<p>今日はそういう質問が出るとは想定がなかったもので、資料を持ってこなかったのですけれども、確認して改めて回答いたします。</p>

<p>区民生活部男女共同参画担当課長</p>	<p>その一方で、相談事業というのが区の中でもいろいろな形でやっている窓口がありまして、福祉事務所の相談というのがありますが、男女平等推進センターでもやっている相談事業がありますので、こちらのご紹介もさせていただきます。</p> <p>いろいろな形で、人間関係とか広い範囲の相談を承る一般相談と、DVの相談、性的マイノリティの専門相談というのをこちらのセンターではやっております、この件数ですね、DV相談ですと大体、令和5年で670件くらいです。いろいろな相談を広く受け付ける一般相談というのが660件くらいなので、ほぼ同じくらいです。性的マイノリティ相談は、開設している時間が限られているので、令和5年度は9件という形ですが、傾向としては、やはり右肩上がりといいますか、相談件数は増えている傾向にございます。特にDVのほうが増える傾向にございます。</p>
<p>村松会長</p>	<p>ありがとうございます。具体的な問題をここから攻めていくというような形でのご意見でも、またご質疑でもありましたら。</p>
<p>櫻井委員</p>	<p>ご説明いただきありがとうございます。私からは質問と意見で計5点、お話しできたらと思っております、この冊子資料2をベースにお話しできたらなと思っております。</p> <p>これは杉並区の男女共同参画に関する意識の部分で、いろいろなことが知れて、私もすごく勉強になりました。1点目が、恐らくこの議論をしていくときに、この調査が結構ベースとなって皆さんで議論していくのだろうと思いつつ、それで本当にいいのかというところを1個考えたいなと思っております。なぜかという、2ページ目にあるように、18歳以上の区民を対象にしていて、38ページ目を見てみると、上から2つ目、年齢を見てみると若者、私たちの団体だったり活動では30歳以下と言っているのですけれども、答えている割合が非常に少なく、50代以上が6割いて、なので結構、年齢層が高めの方がこれを回答しているところで、これをベースに考えてしまうと、固定的性別役割分担意識ですとか、それこそ、今後の結婚する、しないとか、ワーク・ライフ・バランスというところの考え方に恐らくずれがあると思うので、1個質問でいうと、何か子ども関連の部局で、今、子ども・若者に意見を聞くという取組をされていると思うのですけれども、子ども・若者の意見を聞いた中で、こういった男女共同参画、ジェンダー関連の意見を集めたり、何か意見があったりするののかというのを伺いできたらなと思っております。</p> <p>なぜかという、私はこども家庭庁の委員もしているのですけれども、こども家庭庁の調査の中でも、やはりこういったジェンダーに関することですか、あと学校での性的ないじめみたいなもの、体のこともそうですけど、セクシャリティの部分で嫌なのだというアンケートの結果とかもあつたりしております、そういったところはあるのか。もしない場合は、もしかしたら、より若い世代への意識調査をしていく必要があるというのと、でも若い人に答えてくださいとアンケートを送ったところで答えないというのが、大人も多分答えないと思うのです。なので、そういった場合は、恐らく数回しかない中でだと思ってしまうのですけれども、杉並区に住んでいたり、関わりのあるユースを集めて話を聞く場を設けたほうがいいのではないかなと思っております。</p> <p>この調査結果を見て、特に56ページ目のところですが、職場だったり、何か男女差別と感ずることはありますかというのに対して、一番多いのが、男女差別と感ずられることはないと答えていて、えっ、杉並区ってジェンダー平等なの。すごく進んでいるのかと思う一方で、ほかも見ると、もしかしたら、男だから、女だからとか、ジェンダーの不平等みたいなことが当たり前になり過ぎてしまっていて、ジェンダー不平等な状況が何かとか、それが差別であるとか、そういったことがもしかしたら浸透していないのではないかなというのが、私の中で仮</p>

説としてあるところで、それを皆さんとお話しできるといいなと思いました。

3点目が、66 ページ、67 ページですけれども、DVに関して、特に問い14のところ、いずれかの行為が何度もあった、または1、2度あったと回答した割合4割というところで、DV経験のある方が思ったよりも多いのではないかなと思っています。

86 ページを見てみると、相談しなかったという割合が7割で、88 ページを見ると相談するほどのことではないと思ったからが5割で、私も若い世代だったりのところで、性と生殖に関する健康と権利、SRHRの部分、領域に関わっているのですけれども、その中でもやはりDVって何だろうとか、これって相談していいのかなとか、あと、DVって知らない人から起こるといよりも、身近な人からの被害が一番多くてなかなか言いづらいというところもあるので、こういったところをしっかりと、我慢するのではなく、ちゃんと相談していいのだよというところだったり、相談できる環境。特にこれも若い世代に限らずですけれども、行政に頼るといのが、すごく困ったとき以外は頼ってはいけないのだというところも意見として多かったです。なので、ここもDVの部分だったり、相談だったりというところを考えていかなければいけないのではないかなと思いました。

すみません、あと2つです。93 ページです。今回、区の課題の2つ目に、固定的性別役割分担意識というところがある中で、恐らく年代だけで考えられるものではないのですけれども、多分年代でもいろいろ考えたり、施策を考えていく必要があるかなと思っています。その中で、④の教育現場というところで、やはり教育現場は男女平等だよねという方、とっても多いと思うのですけど、全然平等じゃないと私は思っています。なぜかという、隠れたカリキュラム、女子の進学ですとか、いろいろところで男女分けがされていたり、男女というのに当てはまらない人は、より苦しい思いをしてみたいなところがあるので、男女平等だと思わされているのではないかなというところがあるので、ここの教育現場というところ、やはり固定的性別役割分担を解消していく。若い世代もそうですけれども、解消していくにはすごく大事なかなと思っています。

なので、103 ページの問い19に書いてあるような、上位のところ、本当に進路指導ですとか生活指導において、男女関係なく能力を生かせるようにしていくとか、あと、学校生活で、児童・生徒の役割分担は男女に差をつけないとか、ジェンダー平等の意識の授業をするとか、あとやっぱり、管理職の校長先生だったり副校長先生が女性だったりすると、それが子どもに対していいロールモデルとなっていくという研究もあつたりするので、そういったところも非常に重要だかなと思っています。今後しっかりと議論していくときに、教育の場でどのようにジェンダー平等を推進していくのかも議論できたらなというのと、これは質問なのですけれども、杉並区における校長先生ですとか、学校現場における女性の管理職、校長先生だったり管理職の割合を伺えたらかなと思っています。

すみません、最後ですけれども、110 ページ、男女センターのところで、私も今日、午後一で横浜市の男女共同参画センターの機能強化の委員をしていて、ちょうどこの議論があつて、今どこのセンターも、全然、男女共同参画センターが知られていない問題があつて、みんなどうしたものだろうととても悩んでいます。恐らく杉並区も、知らなかったと回答している割合がとて多くて、多分関係者からすると残念という感じだかなと思っています。これも私がやっているジェンカレというプログラムの中では、全国からジェンダーについて関心のあるユースが集まっています、1期35人くらいいるのですけど、男女センターについて知っている子、1人2人しか毎年いないのですね。それくらいジェンダー分野に

	<p>関心がある子でさえ知らない。</p> <p>なので、知られていないだけなので、知ってもらえればポテンシャルがもっと上がるということだと思いますので、こういったところも恐らく、今回のテーマとしてすごく重要になってくると思いますし、こういったところを知られることが、杉並区でも、これまで女性たちが頑張ってきてくださったところを継承していくところにもつながっていくと思うので、そういった点も議論の中に入れられるといいなと思いました。すみません、長くなってしまいましたが以上です。</p>
村松会長	<p>大事なところをよくぞおっしゃっていただき、ありがとうございます。多分私たちが出す答申の中では、今後の調査をどうしていったらよいか、こういう調査をしていくべきだとか、このように調査を改善していくべきだとかは多分入れられるような内容だろうと思います。私は教育とジェンダーのところをやっているので、おっしゃるとおりで、いつも男女平等だと思う領域、一番平等だと思われて、女性の先生もいっぱいいるし、その先生たちが男女差別に遭っていることがあまり見えていないわけですね。杉並区に何度も私もお話ししたことがあるのですが、その問題はすごくあるので、非常に重要だと思っています。</p> <p>それから、センターも岩橋さんは何かあるかもしれませんが、杉並区のセンターは本当にあまり知られていないし、アクセスもしにくいところにあるものですから、問題は多々あると思います。いずれも最終的に盛り込まなければいけない課題だと思っています。ありがとうございます。</p> <p>今のような形で、こういう問題があるのではないかと、今日はデータが出ていないけれども、これはどうなのだとか、そういう話でもいいのではないかなと思います。いかがですか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>事務局です。今、女性校長ですか、1点目の質問が、先ほど職場では男女平等でないところがあるみたいな形のお話があったと思うのですが、ご質問の1点はそこに関わる部分でしたでしょうか。今、校長先生の女性割合と聞けたのですが、ご質問は2つであったかなと思ったのですが。</p>
櫻井委員	<p>1点目が、この調査だと18歳以下の人たちをカバーできないので、子ども関連の部局で、子ども・若者にヒアリングした際に、ジェンダーに関する声だったりが上がっているか、集めているか、そういった調査をしているかということですか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>なるほど、失礼いたしました。子どもというと18歳未満を対象とする形ですか。子ども家庭部さんのほうで、そういった調査はおありですか。</p>
子ども家庭部管理課長	<p>では、私からお答えさせていただきます。今のところ、いわゆる小中学生を含めた子どもたちに対して、ジェンダーに対しての、調査というのはまだ行ったことはございません。今後、例えばこういった審議会で議論が進んでいった場合に、そういったご要望が出たり、社会の状況とかも踏まえまして、調査すると当然、その予算とかも必要になってきますので、そういったときに対応していくようになるのかなと考えております。</p>
櫻井委員	<p>この間、子どもたちから条例を作るに当たっていろいろ聞いていたときに、そういった意見は特になかったという感じですか。</p>
子ども家庭部管理課長	<p>実は子どもたちを主体にしたワークショップはかなりの回数をやっております。そのときに、最初はいわゆる条例を作るために子どもたちの意見を色々出してもらったり、シーズンごとにテーマを分けてやってみて、その中で、本当はかなり広い意見を拾っていますので、いわゆるジェンダーに関することというご意見というのも出ていなくはないです。ただ、そのときには条例に対して盛り込むことということで、その</p>

	1つとして出されているものなので、今後は子どもたちに、ワークショップを継続してやっていきますので、その中で、例えば大きなテーマの1つに、ジェンダーについてを設定したりとかも、部局間で相談しながら考えていければなどは思います。
区民生活部男女共同参画担当課長	今のご返答のところではいかがでしょうか。
櫻井委員	ありがとうございます。さっきも子どもからジェンダーについての意見があったとおっしゃっていたと思うので、数個かもしれないですけども、もし次回以降で、こんなのありましたというのをお教えいただけるとうれしいなと思いました。私も皆さんに、こども家庭庁ではこんな意見がありましたというのを共有できるといいなと思いました。
区民生活部男女共同参画担当課長	ありがとうございました。もう1つの質問について、お伝えいたします。
男女共同・犯罪被害者支援担当係長	今、手元に数値化した資料がなくて、校長の名簿を急ぎ確認しまして、申し訳ない、お名前から推測というか、男女の分けということで今、数えたものですけども、大体割合で言うと、小学校で男性2、女性1というような割合となっていました。中学校に関しては、男性のほうが非常に多くて、男性が22、女性がお1方かなと。すみません、先ほど申し上げた名前で確認しているだけです、正確な数字ではないということをご了承いただきたいのですが、今数えたところでは、そういった方向かなと存じます。
区民生活部男女共同参画担当課長	統計ではなく、今お伝えできる推定事実という形になりますが、今のようなお返事でも大丈夫でしょうか。
櫻井委員	ありがとうございます。あとは、もし分かれば管理職の部分とかも。女性管理職の比率を伺えるとうれしいかなと。
区民生活部男女共同参画担当課長	それは学校のほうで。
櫻井委員	はい。教育現場における。
区民生活部男女共同参画担当課長	教育現場における管理職ですね。それはちょっといったん調べさせてください。
櫻井委員	よろしくお願いします。
区民生活部男女共同参画担当課長	承知いたしました。会長、分かり次第またお伝えいたしますので、お願いいたします。
村松会長	学校の隠れたカリキュラムのところ、実態で調べてほしいことは山ほどあるので、またこういう調査をしたらどうかという話は出てくるかもしれないし、そういう課題があるからちゃんと検討してくださいということも言えるかなと思います。この審議会は、そこまで細かいことをやるのではなくて、きっと枠を作ることだと思うので。でも、非常に重要なことですね。そう思います。
岩橋委員	若者の話ですけども、実は杉並の男女平等推進センターは、「ゆう杉並」という建物の2階にありまして、1階は青少年センターなのです。男女平等推進センターの図書室があって、図書室の整理と、それに関連した読書会だとか、講演会というのを杉女連が2年ほど、都の協働事業として取り組んできて、杉女連で推薦図書、1階の青少年センタ

	<p>一の図書コーナーに定期的に展示をするようにしています。結構利用はされているらしいのですが、特に調査とかはやっていないのですが、そうやって利用をしている、始めているということと、性的マイノリティのグループの方が杉女連に入ってきてくださって、一緒にやっています。メンバーとして。それから、その性的マイノリティの方たちが主催して、自由に話ができる場所というのを定期的に男女平等推進センターの1室で運営しているという事実がありますので、これからの取組としてちょっと期待できるかなと思っています。</p>
村松会長	ありがとうございます。三戸さん、何かありませんか。
三戸委員	ありがとうございます。話題が変わっても大丈夫でしょうか。
村松会長	はい。
三戸委員	<p>ありがとうございます。今回、このジェンダー平等の課題に対して、杉並区の総合計画の6つの分野の中で、福祉、地域共生に位置づけられますというお話がありましたが、私個人としては、やはりジェンダー平等の課題も6分野全部に関わってくることはないかと思っております。全ての分野で、同じようにジェンダー平等が大事にされるような立ってつけや位置づけがされるといいなとすごく思っております。ジェンダー平等について、区民生活部の皆様が主管課とはなっていないと思うのですが、そこが主管課だよという形にならないような、全ての部署、部課が自分ごととして考えられるような、そして取組を進められるような立ってつけになっていくといいなとすごく思っております。</p> <p>今回、諮問の内容が今後の課題と目指すべき未来像に向けて、どのように実現をしていくのか方策を決めていくということなので、ぜひ課題感について、審議テーマの中で話題提供していただいたり、そういった時間があるといいのではないかなと思っております。一旦以上です。</p>
村松会長	横山さんは何か意見ありませんか。
横山委員	<p>今の審議テーマについて意見を言わせていただきます。審議テーマの3ページです。この上のほうに「SDGsとの関係」、「本計画の体系は」云々とあって、その2行目、「ジェンダー平等の視点を重視して再構築し、5つの取組方針及び16の取組項目」と書いてあります。それで5つの取組方針と16の取組項目を見ると、全て女性に対する差別をなくそうということで、これはジェンダー平等の視点ではなくて、男女平等の視点じゃないかという気がするのです。ここはあくまでも男女平等に関する審議会ではなくて、ジェンダー平等に関する審議会なので、もう少し広げて、ジェンダーというのをもっと皆さんで広く捉えて審議したらいいと思っています。以上です。</p>
村松会長	<p>ありがとうございました。大きくジェンダー平等をどう捉えるかにつながってるところかなと思いますが、男女平等ではなくて、ジェンダーというところがどういうものか、いろいろ解釈があるかなと思いますけれども、少なくともここに、非常に女性のことが前面に出てきているところを、多様なジェンダーがあり得るということを想定しなければいけないだろうということかなと思います。大きなテーマだろうと思います。ありがとうございました。</p> <p>では山田さん、ご意見お願いいたします。</p>
山田委員	<p>ありがとうございます。幾つかコメントをさっとしたいと思います。まず地域の関係です。国のほうでも、いわゆる地方から女性が出ていってしまって、東京に吸収されているところで、私もちょっと発言したことがあるのですが、地域の女性差別的な慣習、女性が全部下働き</p>

をしてといったことを発言したことがあるのですが、じゃあ、東京で、杉並区は、先ほどの人口ピラミッドでもあるように、若い女性を地方から吸収している地区ですね。じゃあそこで、地域社会で差別的慣行がないから集まっているというように見ると、5ページの男女平等意識で、社会通念や慣習・しきたり等」で10.7%、国勢調査よりも値が低い、平等になっていないということが見られます。

ということは、地方から男女差別を嫌って東京に出てきた人たちが、なぜかという、都会の東京23区のようなところでは、地域と関わらずに生活できるから、地域の女性差別的慣習を、全く無視しても全然生活に支障がないから集まっているとも言えるわけです。

つまり地方でも都会でも伝統的地域組織というのは、今でも男女差別が大きくて、女性が下働きで男性が会長みたいなところはまだまだ強いけど関わらなくて済むから若い女性は集まってくる。そうすると、若い女性等を地域に引き込むためには、男性もそうだと思うのですが、地域に引き込んだら、引き込もうとしたら、女性差別が嫌で地域には関わりたくないとなるかもしれない。そういうところの問題意識も持ったほうがいいのかと思っております。

ちょうどたまたま、高見先生と私、あるところで地方と都会の意識の差の調査等もしていますので、まだ公表できないですけれども、公表できるようにになりましたら、多少紹介させていただければと思っております。

あと、2番目には、これも私、国の審議会等で時々発言するのですが、最近カスハラということが話題になってきて、東京都でもその条例が作られたのですが、私に関心あるのは、カスタマーセクハラみたいなもので、それも実は介護や看護の場面でのセクハラなのですね。よく病院とかそういうところでは、介護する人が、介護する人からの、患者、利用者へのセクハラというのが問題にされますけれども、実は私のゼミに、一時、女性看護師さんがいて、私が問題にしたいのは、患者や介護されている人たちが、介護したり、看護師に対するセクハラ、これも一種のカスタマー、利用者とか顧客から労働者へのハラスメントが、胸やお尻を触られることなんかしょっちゅうで、それを先輩の看護師さんに言うと、そんな我慢しなさいと言われるといったところがあって、ちょっと私もそれは会議等で問題にはしているところなのですが、そういうところもあるというのを1つ考えていただきたいというのが第2点です。

第3点は、これは私の今の関心なのですが、弱者女性といった場合に、よく言われる、母子家庭でバイトを掛け持ちしてといわれますけれども、いわゆる接客を伴った飲食業、はっきり言ってキャバクラに代表されるようなところで働く女性たちの人権が侵害されて、低賃金であるわけで、子どもを連れて技能もなく働けるのはそこしかないために働いている人たちがいて、どうもお役所のほうは、私もこれも国の委員会等で発言したことがあるのですが、お役所はあまりそういう人たちが扱いたくないというところがあります。杉並区はあまり大きな歓楽街はないと思いますけど、大きな駅周辺でそういう店も幾つか見受けられますので、弱者女性と言った場合、そういう人たちも見捨てないような形で政策を組んでいただければいいと私は考えております。ほとんど3つともコメントですけれども、今の私の考えはそんな感じです。以上です。

村松会長

ありがとうございました。地方から東京に人が集まってきて、地方から見ると、女性が東京、都会に集まってしまおうという問題が全国的に見るとある。その受け皿になっている東京としてはどうなのだという問題もあります。そして、そのときに東京の魅力が、東京というか都会の魅力が、地域に関わらなくてよいということがあるのではないかとこのご

	<p>指摘、山田さんらしい指摘だったなと思います。</p> <p>あと、最後のところが完全に聞き取れなかったもので、後でまた記録で拝見しますが、カスハラ的なことが介護者へのセクハラみたいな形で起きているとか、いろいろな新しい問題をご提起いただいたかなと思います。完全に私、聞き取れてなかったもので、後で記録で確認させていただきます。</p> <p>まだまだいろいろな問題があるということが、皆さんのご意見の中からも出てきたかなと思います。残り 30 分くらいなのですけれども、この「審議テーマについて」という資料 9 で、区のたたき台という形で、8 ページに、今も地域社会の問題というのを出していただきましたけど、まさに、「人権を尊重する地域社会とは」というのがあって、その地域社会を考えると、どのようなことが考えられるといいのかとか、ほかのところと関係とか色々あるかなと思いますが、まとめ方として、これで決まったものではないし、これから修正も可能だと思いますけれども、取りあえずこんな形でまとめるというのでいいのか、それとも、そこをもう少しこのように入れたほうがいいのか、そして、それを今後の審議会の進め方で、9 ページに書いてありますように、第 2 回以降、それぞれのことを、今日は幅広くいろいろな問題を提起していただきましたけれども、抽象的になってかえってやりにくいかもしれませんけど、左ページに挙がっているようなテーマで進めていったらどうかというのが事務局提案ですが、ここのまとめ方そのもの、そして進め方についてご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>かなり問題は含まれるし、それぞれの中でリジットに考える必要があったり、お互いにもつながっているから、話は行ったり来たりする部分があるかと思いますが、こういうまとめ方はあり得るかなと思いますが、何かご意見が、お気づきの点がありましたらお願いしたいと思います。</p>
<p>櫻井委員</p>	<p>ありがとうございます。この今の 8 ページのところを見ていて、最終的なまとめとしては、恐らくもうちょっと先の未来を考えた上でのワーディングとかができるといいなと思っていました。なぜかという、結構今出ているような 4 つの柱、多様性のところはあれですけど、それ以外のところは、結構これまでの男女共同参画計画だったりとかで使われてきた言葉だったり、固定的性別役割分担意識も結構ずっとされてきていると思うのです。なので、今後話していくというところだったり、一旦は柱としていいかなと思ったのですが、最終的にもうちょっとブラッシュアップしていったりとか、柱もこの 4 つか分からないですけど、何か今後変更していく形もちょっとありなのかなと思っていました。</p> <p>なぜかという、杉並区の男女共同参画行動計画を見てみると、首都圏でこんなに長い計画やっているところは初めてだなと正直思っていて、北海道の町とかだと 10 年計画とかやってはいますけど、でも、このジェンダー分野は、これまでもそうですが、ここからいろいろスピードが速い中で、8 年間も計画にしているのは結構すごいなと思っていて、でも実際、ちょっと辛口なコメントをすると、この計画を見てみるとあんまり踏み込んだ内容が書かれていないなと正直感じているところなので、そういったところも含めて、一旦こういう柱にしつつも、もうちょっと踏み込んで、もうちょっと先を考えて、ちょっととがったようなアウトプットにできると私はいいのではないかなと思いました。</p>
<p>区民生活部男女共同参画担当課長</p>	<p>1 点補足させていただいてよろしいでしょうか。男女共同参画行動計画のほうは、3 年に 1 度をめどに、この実態調査が 3 年に 1 回なのですけれども、社会の変化を見て、3 年に 1 回をめどとして改定を行う。基本的には 9 年間の計画なのですが、3 年ごとにトレンドも含めて見直すというのがありまして、実はこの改定というのも 1 つ、私どもの今後の</p>

	<p>作業としてございます。</p> <p>なぜかという、実はこれ令和4年度に立ち上げているので、令和5年度に行った性の多様性に関する条例とかパートナーシップ制度は反映されていないのですね。それが反映する課題というのが私たちのミッションとしてございますので、今のお話は、そういう意味で行動計画の変化に反映されていく可能性があるものと考えていただければと思います。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。そうですね、行動計画そのものをどのようにしていくか、どういうつくり方をしていくのがいいのかということも、そういう意見が出ることもあり得るかなと思っていますので、ありがとうございました。</p> <p>今のご意見の中で、議論をするのはこの枠組みを使ってもいいのではないかとおっしゃっていただいたのですけれども、ほかの方、これについて何かありますか。</p>
高見副会長	<p>不勉強を恥じながらいろいろお伺いしたいことがあります。審議テーマの4つの柱の前に、そもそも諮問内容に、杉並区における男女共同参画の取組をジェンダー平等の視点から発展させると書いてあります。では具体的にどういうことを目指そうとしているのか。皆さんの中で考えていることがそれぞれあると思うけれども、もしかしたら重なっていないとか、違うことを考えていらっしゃるかもしれない。だから、何をやればいいのかちょっと見えにくいと思っています。今、課長から性の多様性条例の話が反映されていないというのがありました。多分それは1つあるのだらうと思いますが、男女のみではなく「性の多様性」という点を組み込むというだけの話なのかということ、多分もうちょっと他の論点もあるのではないかと思うのです。</p> <p>先ほど横山委員からも、ジェンダー平等とはどういうことなのかという話がありましたけど、私も分かるようで分からないところがあります。なので、区の問題意識をお聞きしたいということが1つと、もし専門家の方を招いてレクチャーを受けるとか、そういう機会があれば、ジェンダー平等とは何なのか、あるいは多様性とは何なのか、こういった分かるようで分からないところについて、ふわっとした議論で終わってしまわないよう、どこかで認識の共有をしたいという感じがしております。</p> <p>あとは、教えていただきたいのは、「審議のテーマ」の資料9の5ページに男女共同参画に関する意識と生活実態調査があります。杉並区で男女共同参画計画が動いている中で、実態調査をするとまだ問題があるから改善したほうがいいという点ですが、どういうところに課題があるのかが、ここからは深められていないという感じがします。例えば性別役割分担意識だったら、多分、性別役割分担意識を持っている方は減ってきていると思うのですね。だから、減ってはいるけれど残っているから直していこうということなのか、あるいは、例えばほかの地域に比べてこういう規範がまだ強いから直していこうということなのか、どの辺りに、例えばこの規範だったらどういうところに課題があるのかというのが、もうちょっと共有できると、具体的な議論につながっていくという感じがしました。以上でございます。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。おっしゃるとおりです。諮問は課題と未来像と、その手段でしたか、方向でしたかについてという、そういう諮問だったのですね。だから何が課題なのかという、根本的には何なのかという辺りを少し整理する。いっぱい個別のテーマ、課題はあると思います。もちろんそれも大事だし、それをつなげている根本にあるのは何なのか。何を変えていくのが一番大事なのかとか、その順序はつけられないかもしれませんが、何か少し構造化するとか、課題を少し整理する。そのために多分この審議スケジュールが、個々に具体的に見ていった中で出</p>

	<p>てくるのではないかという想定なのかなという気がするのですが、こういう進め方がいいのか、それとも、何かほかの、課題をとにかくバッティングするような、全体像を見取って、だからこういう、その先にある未来像を考える議論をする。でも課題がなくなるのが未来像だと思うので、それは表裏かもしれないですね。そのための方策はまた別なので、それはそれで議論するとか、そういうテーマごとではなくて、形式、フォームのほうから入っていくというやり方もあるかなという気もしています。その辺何かご意見が、積極的にこういう方法をやって進めたらどうかというようなのがあったら、今日も残りあと15分くらいですので、2回目以降の議論を、9ページにあるような、こういう形でやっていいのかどうか、という辺りについてご意見頂ければと思います。ここに議題と書くのは難しいかなとちょっと思っているものですから。</p>
櫻井委員	<p>何度もすみません。次回以降のやり方のところで、今、高見委員がおっしゃったように、ジェンダー平等といえど、多分この中でも捉え方はもしかしたら様々で、あと多分、ジェンダー平等と言われたときに、男女というのは分かるけど、そこにLGBTも含むのか、みたいなのところも、多分人によっては、はてなだったりもするのかなと思うので、多分そこをそろえていく作業がまず必要なのかなというのを、高見委員のお話を伺っていて思いました。</p> <p>多分こういうのを話すときに課題からいっばい出しがちだと思うのですが、そうではなくて、ジェンダー平等の未来、ジェンダー平等の杉並区はどのようなのだろうとか、それぞれの課題がどうなったらいいのだろうかみたいなのところの、最後に未来像を考えるというか、最初にありたい姿のところ、私たちもユースの事業でも、ありたい姿から考えて、そうなったときに、今の現状は何なのだろう。その差分は何なのだろうというところから事業を考えていくというのをやっているのですが、ワークショップ、こういうちょっと遠い、心の距離もちょっと遠いと思うのですが、ワークショップ形式で、ポストイットとかでいろいろ貼っていきながらみんなで、委員だけではなくて、担当部局の方だったりも含めて、どんな杉並区、ジェンダー平等のまちはこうなのではないかというところから考えていきつつ、じゃあ現状どのようなだろうというところで、何が必要なのだろうという進め方、座ってトークというよりかは、ワークショップ形式がちょっとできると楽しいのではないかなと思いました。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。新しい発想が出てきましたね。先にほかにも何かご意見があったらお願いします。いろいろなやり方をやってみようとか、今日すぐここで結論は出ないかもしれないけど、少し宿題に頂いて、それをまた事務局とも相談して、次回以降していくみたいな形かなと思いますので、今日のところはどんどんご意見を出していただいて、もっとこういうことをしていったらどうか……ところ、ジェンダー平等は何かというところ、あるいは誰か講師の話を知りたいとしたら、こういう人の話を聞きたいとか、そういうのがあったら、そういうことも含めてご提案いただけたらいいのではないかなと思いますが、どうでしょう。外の方をお呼びすることはできるみたいなので。</p>
三戸委員	<p>ありがとうございます。櫻井委員のご提案、すごくすてきだなと思っていて、ちょっと付け加えさせていただくとすると、このジェンダー平等に関する施策を推進していただくのは、今後、区役所の皆様になってくと思うので、もしワークショップをされる場合は、できるだけ区役所の職員の皆さんも、課にかかわらず関心がある方でもいいですし、ご参加いただけるような環境を作っていただけると、当事者意識を持ちながら今後の施策を進めていただけるのではないかなと思いました。</p>
村松会長	<p>準備だけじゃなくて、皆さんも一緒にやりましょうという感じですね。</p>

	<p>ありがとうございます。ほかにも何かそういうご提言がある方ありますか。</p> <p>何かまとめ切らないで、事務局に宿題を出してしまうみたいな形になりそうな気配になってきたのですけれども、もう少しこういうところまで詰めておいてほしいというのがありますか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>今、メモを取り切れないうくらい様々なご意見を頂きまして。ただ、会長、大丈夫でございます。お時間のこともありますし、事務局のほうからのご提案でございますが、実際かなり広範囲にわたるご提案やご意見を頂きました。今の行動計画に関するご意見等もありますし、事実としてとらまえる部分、それから、先ほど高見委員がおっしゃったように、区としての考えみたいところをしっかりと、一旦聞きたい部分、それからジェンダー平等とか、基本的な定義に関わるような部分について、人の話を聞く機会があったらどうかというお話や、もしくは、もっと広く対象を広げた、こちらの区の中のワークショップ的な議論の仕方もあるのではないかと、非常にそれぞれいいご意見を頂きましたけれども、それをどのような形で2回目以降に反映させていくのか、体系的に、8回全部に向かってロードマップを描く必要があると思います。</p> <p>ですので、本日頂いたご意見、一旦事務局のほうでお預かりして、整理をさせていただく。そもそも私どもの資料が非常に広いもので、なかなか整理が細かく捉えにくいところで大変申し訳なかったと思っておりますので、今頂いたご意見、一旦お預かりをしまして、整理させていただきます。1つになるか複数になるか分からないですけれども、2回目以降の進め方として、こういったご提案いかがでしょうかということ、2回目に向けて事前に委員の方々にお送りをして、ちょっと事務局のほうでやり取りをさせていただくというやり方もあると思うのですが、いかがでしょうか。</p>
村松会長	<p>いかがでしょうか。その作業に委員の何人かが加わったほうがいいのか、まずは事務局にお願いして、私とすれば、そうさせていただくとすぐ助かりますけど、その辺も何かご意見があったらお願いします。部会を作ったりすることも可能らしいのですが、全員でやるからいろいろな議論が出るということもありますから、ワークショップをどこかで入れていくというのも1つの案だと思いますし、その辺についての進め方とか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>分かりました。部会につきましては、当初の想定は、議論が進む中で、例えば法律でありますとか、国際的な状況でありますとか、特に深めるべきトピックが出た場合に、特に専門性が高い委員の方々に少人数で深めていただいて、それをまた審議会本体にフィードバックするようなスタイルを考えていたのですが、それで決まったものではございませんので、部会の利用方法も含めて、こちらのほうで検討しまして、またちょっと会長、副会長にもご相談をさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
村松会長	<p>では、副会長にもお願いして、また相談させていただいて、次の進め方を考えていくということで、お任せいただいと、それをまた皆さんに打ち返したいと思っておりますけれども、最初の作業をそういう形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。それからジェンダー平等とはということについて、根本的にまずそこを押さえるということで、何かこの人の話を聞きたいとかというのがもしあれば。みんなジェンダー専門家がいっぱいいると思うのですけれども、私もジェンダー平等について何かしゃべれと言われても困るかもしれないので。</p>
横山委員	<p>ジェンダーについて、村松先生からお話を伺いたいです。</p>

村松会長	私ちょっと自信はないです。社会学、分析概念としてのジェンダーについては山田さんのほうが専門。
区民生活部男女共同参画担当課長	先ほどお示した条例の中にもありましたように、そのような形で専門的なお話をということ言えば、外部から識者の方をお呼びして、この審議会の中でお話を頂いたり、資料をご提出いただくことも条例の中には定めがございますので、またその用い方につきましても、いろいろな形で、皆様のご要望にかなう形がどういうものかを、また事務局からお尋ねする形で整理をさせていただければと思います。できるだけ早く、2回目も1か月後という形になりますので、あまり間は空けずに、一旦皆様にお諮りできるように準備させていただきたいと思います。
村松会長	<p>全員で議論していただくと同時に、委員もまだ言い足りないこととか、後から思いついたところはどんどん事務局に言っていただくという形で進めていったらどうでしょうか。ワークショップではないけど、いろいろ行ったり来たりしながら、しかし限られた回数の中である方向性を出さなければいけないので、なかなかお引き受けしたときから大変だなと思っていたのですが、皆様のご協力で何とかまとめていきたいと思いますので、副会長にはいろいろと相談に乗っていただきたいと思います。</p> <p>では申し訳ないですけれども、事務局のほうで少し整理していただいて、講師についても何かご提案があれば頂いて、またほかの方からも、こういう話を聞いたらいいいのではないかというようなことがあったら、ぜひ意見を出していただく、事務局のほうにお知らせいただくということではいかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>何かいろいろとはっきりしない進め方で申し訳なかったのですけれども、1回目としてはいろいろと話が出て、それぞれの方からご意見頂いたので、今日はお1人欠席がいらっしゃいましたけど、内田さんにもその辺をお伝えいただいて、何かあったら、内田さんは男性のことをやっていらっしゃる方なので、何かご意見があるのではないかなと思います。</p> <p>そろそろ1時間という形になります。今日の議論をきちんとまとめるところはできておりませんが、次への進め方というのが一応出てきたかと思いますが、本日の議論を基に次回以降の進め方とかテーマについて事務局に、事務局は大変だと思いますが、ぜひ議事録も上げていただいた上で、その辺の議論を進めて、検討をしていただければありがたいかなと思います。委員の皆さんもぜひ積極的にご意見を出していただければと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>では、今日はそんなところでよろしいでしょうか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	では、事務局から少し連絡事項ということで、ほんの数分ですが、ご説明させていただいてよろしいでしょうか。
男女共同・犯罪被害者支援担当係長	<p>すみません、私のほうから事務連絡ということでご連絡させていただきます。先ほど申しあげました次回の開催日程でございます。最終8回のスケジュール案をお示しましたが、まずは次回の日程を確認させていただければと存じます。大変恐縮ではございますが、後ほど私から改めてメールを差し上げますが、明日中に出欠の可否についてお知らせいただければ大変助かります。その際は、会場にお越しになれない場合はオンラインで参加ということの可否も含めてご連絡いただければと思います。</p> <p>2つ目ですが、本日の審議会の内容についてです。本日ご審議いただいた内容は、冒頭でも申し上げたとおり、本日お配りした資料とともに、区のホームページに掲載してまいります。資料につきましては、本日からおおむね1週間程度をめどにホームページに掲載してまいります。本日の内容につきましては、まずはテープ起こしをして、その後に委員の皆様にご確認いただきたいと思います。その後、大体本日から</p>

	<p>3週間後をめどにホームページにアップできるようなスケジュールで進めてまいりたいと思います。議事録の確認に大変お手数をおかけしますが、何とぞご協力のほど、お願いいたします。</p> <p>それから受付で、本日、口座振替の依頼書をお出しいただいた方いらっしゃいますが、何人か今日お忘れの方で、後日提出ということで封筒をお渡しした方がいらっしゃると思います。申し訳ございませんが、なるべく早めにご提出いただければと思います。</p> <p>それから、本日机上に配付しております個人番号提供書、マイナンバーになります。内容をご確認いただき、必要書類を貼り付けていただき、次回以降の審議会で構いませんので、お持ちいただければと思います。</p> <p>それから最後になります。傍聴ルールにつきまして、途中でご意見を頂きました。傍聴者への注意事項という点、申請書の記載内容など含めて、改めて委員の皆様にご確認いただけるような形で整理してまいりたいと思います。またメールを差し上げますので、大変お忙しいところ恐れ入りますが、ご確認のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>私からは以上です。</p>
村松会長	<p>ありがとうございました。議事進行に関して多々ご不満もあったかもしれませぬし、不手際もあったかと思ひます。お許しください。</p> <p>では、本日の第1回杉並区ジェンダー平等に関する審議会は終了とさせていただきます。皆様、どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。</p>